第六章　シベリヤ地方誌

一　極東地方

極東地方とは

廣大な面積　極東地方はソヴィエト聯邦の盟首ロシヤ共和國に屬して居り、シベリヤの最東部を占めて、舊アムール・沿海・カムチャツカ・サガレン島の諸州から成つて居る。東は太平洋の緣海であるオホーツク海・ベーリング海等に面し、北は一部分北極海に臨み、他の大部分はロシヤ共和國のヤクート自治共和國、西はロシヤ共和國の東部シベリヤに接し、南はアルグン川・黑龍江・ウスリー江等によつて滿洲國及び蒙古と境して居り、更にサガレン島にあつて、北緯五十度の緯線を以て我が國と接して居る。大體北緯四十二度以北七十度に及ぶ土地を占め、ソヴィエト聯邦の邊境にあつて太平洋に臨み、又日本・滿洲國と境を接してゐる、といふ地理的位置は極東地方の政治・經濟を規定する根本的な地理的條件の一つであると見る事が出來るのである。

極東地方の地理的條件の一つとして面積の廣大性が擧げられる。南北の延長は三千二百粁、東西の延長は三千粁に及ぶといふ尨大な四極のうちに二百三十三萬方粁といふ廣大の面積の陸地空間が横はつてゐるのである。かくの如くに、極東地方の面積は我が國內地の六倍以上に及んでゐるのであつて、面積の上から云へば、滿洲國の約二倍に當つてゐるのである。極東地方全體はヨーロッパで云へばドイツ・フランス・ベルギー・オランダ・イタリヤ・スペイン・ポルトガル・オーストリヤ・ラトヴィヤ・リトワニヤ・ブルガリヤ・デンマークの十二ケ國の面積の合計に等しいのである。

が人口は非常に少いのであつて、後に述べるやうに北部のツンドラ帶の如き殆んど無人の地帶もあるために、この地方全體の人口は僅かに百五十九萬人に過ぎないのである。前記ヨーロッパの十二ケ國の全人口が二億人以上に達してゐるのに比較してはもはるかに少いのであつて、一方粁の人口は僅かに〇・六人に過ぎないのである。これを以てしても極東地方の人口が如何に稀薄であるかゞわかるのであつて、而も殆どその全部が南部の、こゝで云ふ滿蘇接壤地帶に集中してゐるのである。この人口の稀疎性こそは極東地方の地理的な特徴の一つと見ることが出來るのである。

極東地方の自然

山地　極東地方の地理的條件を構成する地形上の特徴としては、第一に域內が山勝ちであつて廣大の平原のないことが擧げられるのである。

シベリヤは氣候に因る植物景觀と地形とによつて凍地帶・森林帶・草地帶・高地帶の四地帶に分つことが出來、而もこの四地帶は大體に於て北から南に漸移してゐるのであつて、シベリヤには略〻東西の方向に走る四地帶が並行してゐる、とすべての世界地誌の書物に書かれてゐる。而して極東地方は大體この高地帶又は山岳帶の東半を占めてゐるのであるから、山岳が重疊してゐるのもまたやむを得ないと云はねばならないのである。

従來は極東地方に屬して居つたが、一九三二年以後は東部シベリヤ地方に編入されてゐるザバイカル地方はヤブロノイ山脈のわだかまつてゐる地方で、支那との國境に沿つて多少の草地帶のあるほか殆どすべてが山岳地帶をなし、「アジヤの最初の擡頭地」と云はれる高地の一部に當つてゐる。而してこの重疊する山脈の間はインゴタ・オノン・シルカ・アルグン等の諸河川が深い谷を作つて流れてゐるのであつて、インゴタ川とオノン川とは合してシルカ川となり、シルカ川とアルグン川とは合して黑龍江つまりアムール川となつてゐるのである。

ヤブロノイ山脈はザバイカル地方から東方に向つて、スタノヴォイ山脈に連る。スタノヴォイ山脈は極東地方の西南部から東北に向ひ、オホーツク海の沿岸に沿つて遠くコルイムスキ山脈に續き、ベーリング海峽のチュクチ半島にまで達してゐる長大な山脈である。高度二千米に達する高山群を含んで居つて、黑龍江本流とレナ川との分水嶺をなして居り、又極東地方とヤクート自治共和國との境界をなしてゐるのである。スタノヴォイ山脈の南方の傾斜地と支脈とは黑龍江地方の全北部を占めて居り、その東方に大體南北に走る小興安嶺は沿海州との境界となつてゐる。而して西南に行くに從つて地形は次第に低くなり、遂にゼーヤ・ブレーヤ兩河流域の平野となつて、黑龍江に達する。黑龍江地方のすべての河川は黑龍江の流域に屬してゐるのであつて、その主なるものはゼーヤ・ブレーヤ・セレムツジヤの三川である。ゼーヤ川はスタノヴォイ山脈に、ブレーヤ・セレムツジヤの兩川は小興安嶺にその源を發してゐるのである。

更に東方の日本海岸に於いては、シホタアリン山脈がペートル大帝灣の沿岸、ウラヂウォストックの附近に起り、海岸に沿つて北東に走つて黑龍江口附近にまで達してゐる。この山脈は割合に低く、その高度も中央部に於て約一千米を示してゐるのであつて、ウスリー江流域と海岸地方とを分つてゐる。海岸地方は狹隘で大河は見られないが、シホタアリン山脈の西南の傾斜は漸次興凱湖沿岸の平野に移つてゐる。この平野は興凱湖に注ぐ小さな河川の溪谷の集合から成つてゐるが、これ等河川の分水嶺が不明瞭であるので平野と云ふ印象を與へられるのである。又シホタアリン山脈は北方ではウスリー江の諸支流の分水嶺をなして居り、このウスリー江に沿つては相當に廣い平野が發達してゐるのである。尙黑龍江の下流にはウドイリ・キジ・アレリ・チリヤ等の幾多の湖沼が並んでゐる。

河川と平野　次に極東地方の河川を總括的に述べるに、所謂滿蘇接壤地帶は黑龍江の本支流の流域であつて、黑龍江こそこの地帶の中心的水路である。黑龍江はオノン・インゴタ・ネルチヤの三支流をもつシルカ川やアルグン川・ゼーヤ川・ブレーヤ川・松花江・ウスリー江・アムグン川等の多數の支流を有して居り而も本流と共に航行可能な流路が頗る多いのであつて、極東地方の最も邊境の地方をもその交通圈内に含んでゐるのである。しかしその流域の人口が稀薄であること、河川の改修工事が殆んど行はれてゐないこと、河口が北東方に偏在してゐること、而も韃靼海峽の北部には所謂黑龍江の三角洲があつて、附近の水深が淺い上に、一ケ年の大部分が氷のために封鎖されてゐること等の缺點があるために、今日ではその交通路としての價値はその延長と水量との大きい割合には大きくはないのである。尤も山地の森林を伐採して、これを輸送するための輸送路としては、本支流を合して、約三萬粁が用ひられて居り、この意味に於ては、黑龍江は重要な役割を果してゐると云ふことが出來るのである。

このやうな山脈と河川との配置に規定されて極東地方の低地は主に河谷によつて形成されてゐるのであつて、その内の主なものを擧げれば次の如くである。

一、ゼイスコ、アムールスカヤ低地　ゼーヤ川の下流及び黑龍江の流域の一部である。

二、ニジネ、アムールスカヤ低地　ハバロフスクの附近から東北にニコライエフスクの附近に至るまでの黒龍江の下流に沿つて展開する平野である。

三、ウスリースカヤ低地　ハバロフスクの附近から西南に向ふウスリー川の河谷であつて、その南は興凱湖の低地に續いてゐる。

自然的條件　これを要するに、極東地方の地形は山岳が多く、廣大な平野がないのであつて、このやうな地形上の特色はこの地帶の支配的な地理的條件の一つであつて、この地帶に農業・牧畜業の著しい發達が全く見られないのも、人口が極めて稀薄で、都市が著しくないのも、このやうな地理的條件を前提して始めて理解されるのであり、又この地帶に森林富源・鑛物資源の豐かなのもこれと因果關係があると見ることが出來るのである。

次に、この地帶の第三の地理的條件として寒冷な氣候が擧げられる。勿論南北は緯度で三十度近くに達して居り、又海岸に面してゐる地方と海岸から離れてゐる地方とがあるので、極東地方の各地で多少の差別を示してゐることは勿論のことであるが、極東地方の氣候を決定する要因としてはその緯線的位置、オホーツク海の寒流、大部分の大陸的地形、太平洋への接近の四要素が擧げられるのである。

第一の緯線的位置を見るに、極東地方は大體に於て北緯四十二度以北に位してゐるのであつて、かゝる緯線的位置がこの地方の氣候を寒冷ならしめてゐることは、我が樺太の氣溫からも直ちに察知せられるのである。更にオホーツク海の寒流はこの地方の氣溫を緯度の割合には低下せしめてゐるのであつて、これがために極東地方の平均氣溫は同緯度に位するソ聯邦地方の他の地方よりは低いのである。又第三の大陸的地形はこの地方の大部分をしてアジヤ大陸の直接的影響をうけしめ、大陸性氣候を指定してゐるのである。かくして極東地方の氣溫は緯度の割合には寒冷であつて、殊に冬の寒氣は一層酷烈である。が、併しその反面に於て太平洋に近接してゐることはその一萬四千粁、ソヴィエト聯邦の全海岸線の六十%以上にあたつてゐる長い海岸線を通じて、太平洋の季節風の影響を割合によくうけしめてゐるのであつて、これがために、極東地方のうちでも特に所謂滿蘇接壤地帶の海岸に近い方面は降水量が比較的に多いのである。

寒冷の氣候

氣溫　先づ冬の氣溫を見るに、大陸内部から低溫で且つ乾燥する風が吹いてくるために、同一緯度に位するヨーロッパロシヤの各地よりも著しく低いのであつて、例へば殆ど同一緯度にあるスフムとウラヂウォストックとの冬の平均氣溫を比較して見ると、スフムは五・五度であるのに對して、ウラヂウォストックは零下一二・八度を示して、その差は實に一八・三度に及んでゐるのである。更に極東地方の北部にはツンドラ帶なども見られるのであつて、これによつても、この地方の冬が如何に寒いかゞ知られるのである。

次に極東地方の夏の氣溫を見るに、夏には大陸内部の高溫地の作用をうけ、又太平洋の季節風の影響をうけることもあつて、大體に於て溫暖であり、中には隨分高溫な所もある。例へば、ニコリスク・ウスリスキーの八月の平均氣溫は二一・三度に達してゐるのである。なほ極東地方で夏季最も高溫な地方は興凱湖沿岸の低地、ウスリー江流域及び黒龍江の中流地方である。これらの地方は冬季の酷寒に比較すれば比較的に高溫であつて、約五ケ月の植物繁茂期

間の平均氣溫はある地點に於ては米作を可能ならしめてゐるのである。

雨量　次に極東地方の降水量を見るに、我が内地より少いことは勿論ではあるが、決して少い方ではないのであつて、沿海管區や黒龍管區の降水量は五〇〇―八〇〇粍であり、又ゼーヤ管區の降水量は三〇〇―五〇〇粍の間を往來してゐる。而してこれらの極東地方の降雨の大部分は七月と八月とに集中してゐる。これらは季節風の作用によるのであつて、冬季は大陸の内部から太平洋に向つて吹く西北季節風が降雪量の少い快晴の日の連續を招來するのに對して、四月頃から反對に太平洋から大陸内部に向つて吹く東南季節風が多量の濕氣をもたらすので、夏季に雨が多いのである。例へばシホタアリン山脈の東部斜面の海岸地帶では一ケ年に八〇〇粍の降水量を示し、又アヤン附近のオホーツク海岸及びカムチャツカ東海岸では一ケ年の降水量が一、〇〇〇粍に達するのである。尤も季節風のもたらす雨は小興安嶺の以西には及ばないのであつて、黒龍管區の如きは季節風の作用はうけるが、そのもたらす雨の惠みは先づ受けないと見ることが出來るのである。

地理的條件　以上述べたところを總括して見ると、僻遠北偏の地理的位置、重疊する廣い山地と狹い平原、寒冷な氣候の三者は極東地方に固有な地理的條件の支配的なものと見ることが出來るのである。

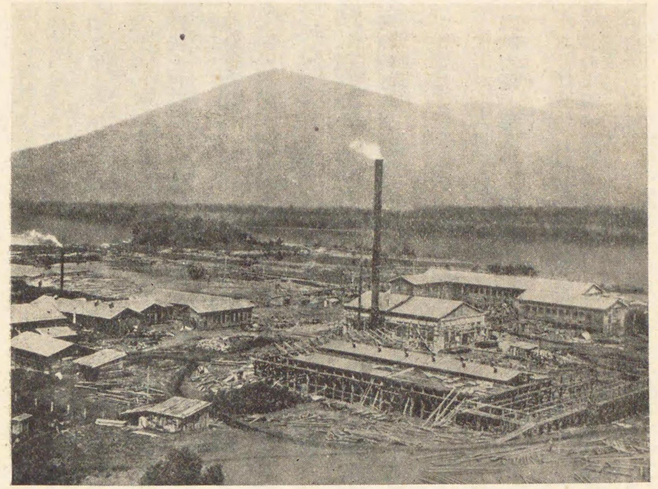
第一の地理的位置はこの地方をして文字通りソヴィエト聯邦の邊境地帶たらしめてゐるのであつて、この地方が今日も尚產業文化の發達において著しく遲れて居り、住民が甚だしく少いのもかゝる地理的位置に負ふところが多大なのである。更にこの地方が滿洲國や我が國との接壤地帶を作つて、政治的・軍事的に多くの問題を惹起してゐるのも亦かゝる地理的位置に負ふてゐると見ることが出來るのである。

第二の山地が重疊してゐる地形は、この地方の偏在性・僻遠性を更に强化してゐるのであつて、又これを通じてこの地方の產業文化の發達、人口の增加を阻害する自然的基礎をなしてゐると見ることが出來るのである。更にまたこの山地はこの地方に無限の森林富源を與へ、豐富な鑛物資源を藏して、この地方に林業・鑛業の發達のための物的な手段となつてゐると見ることが出來るのであつて、かのコムソモリスク建設やブレーヤ建設の如きもかゝる物的手段の存在を前提してその必然性が首肯されるのである。

第三の寒冷な氣候の作用を見るに、冬の寒氣の酷烈は各河川をして一ケ年の大半を氷結させ、或はウラヂヴォストックの港を冬季三ケ月を結氷させる等、この地方の交通を著しく阻害する物的な手段となつて居り、人口吸收の妨害となり、產業一般の發達を不利ならしめてゐる自然的基礎となつてゐると見ることが出來るのである。併し又一方この地方に價値豐かな寒帶性の大森林を發達せしめる物的な手段となつてゐるのであつて、この意味に於ては寒冷な氣候の積極的な作用も認められるのである。

極東地方の富源

森林富源　極東地方の森林面積は實に我が國總面積の一倍半に當る約九十萬方粁であつて、極東地方全面積の三四%、カムチャツカを除いた面積の六三%に當つて居り、極東地方最大の天然資源と目されてゐるのである。しかもこの森林面積の八割は針葉樹から成つてゐるのはこの地方の氣候的條件の然らしめるところであるとは云へ、これがためにこの廣大の自然林の林業的價値はいよ〳〵大なるものとなつてゐるのである。尙樹種の分布を見るに、南部及び東部に



カムチャツカの製材所

は主に朝鮮松・蝦夷松・樅松等が茂つてゐるが、西北部には主として濶葉樹が茂つてゐるのである。しかしこれらの無限の森林富源も今の所は交通が不便なために未だ充分に利用されてゐないのであつて、大部分は開拓を待つて徒らに冬眠の狀態を持續してゐるのである。

現在の調査では全森林面積の約五六％が經營可能であるとのことであるが、今利用されてゐる森林は全森林の二―四％に過ぎないと云ふ有樣であるから、將來如何に大なる發展可能性を藏してゐるかゞ察知されるのである。尤も最近は林業も他の諸產業と歩調を合せて大發展をなしてゐるのであつて、一九二八―九年の木材伐採高が百九十四萬立方米であつたが、一九三四年度には五百五十七萬立方米になつてゐるのである。これは勿論ソヴィエト聯邦當局がこの四ケ年間に九千五百萬ルーブルと云ふ巨資を投じて林業開發をはかつたためであることは云ふまでもないが、無限の森林

富源の存在を前提して始めてその必然性が理解されるのである。かくして木材は今日極東地方の地方的需要を充して餘りがあつて、輸出されてゐるのであるし、しかも近い將來七千萬立方米內外の年產の可能性は充分にあると云はれてゐるのであるから、極東地方の林業の將來には期して待つべきものがあると云ふことが出來るのである。

かくの如き林業の有望性は寒冷なこの地方の氣候が廣大な山地と相俟つて主に寒帶性の針葉樹から成る大森林を作つてゐることに因ることは云ふまでもないが、又一面においてはこの地方の森林が日本・支那・印度・オーストラリヤ等の多くの大市場に近接してゐるといふ地理的位置によつても亦促されてゐるのである。

この森林の木材富源に關連して注目されてゐるのは毛皮である。極東地方の毛皮は品質の優良、生產額の大量の點で世界的意義をもつてゐるのであつて、寒帶性の森林から狐・貂・鹿等の毛皮が產出されて、外國市場に輸出されて、非常に珍重されてゐるのである。

鑛物資源　次に鑛物資源は如何。それは極東地方の森林富源と並んで有名であつて、極東地方には多種の有用鑛物が豐富に埋藏されてゐるのである。

從來から人口に膾炙してゐるのは金である。金は黑龍江の上流・ゼーヤ川地方・ブレーヤ地方・ヒンガン地方等に多產する砂金であつて、その產額はソヴィエト聯邦產全額の約三分の一を占めてゐるのである。その採掘法はこれまでは非常に原始的のものであつたが、最近は著しく進歩して機械化されるやうになり、それだけに產額が著しく增加して來てゐるのである。しかもその埋藏量は六百萬瓩と云はれてゐるから、將來の發展が期待されるのである。

銅山は極東地方全體で六十六もあり、ジングード及びプラスツン灣の附近やオホーツク海沿岸に產出する。又銀・

鉛の鑛脈も頗る大なるものがあり、ネルチンスク鑛山のみで銀六百五十萬瓲、鉛百五十萬瓲、亞鉛百五十萬瓲以上を埋藏してゐると推計され、又現にシホタアリン山脈のテチュヘ鑛山から銀が採掘されてゐるのである。そのほか水銀・蒼鉛・プラチナ・錫・アンチモニー・ニッケル・コバルト・マンガン・砒素・クローム・石綿・曹達・螢石・石膏等各種の鑛物を埋藏してゐるが、現に利用されつゝ鑛物として最も注目されてゐるのは石炭と鐵とである。

鐵は極東地方の最も重要な鑛物の一つであつて、鑛脈は各所に發見されて、既に百四十ヶ所に昇つて居り、その埋藏量も五億瓲以上と推計されてゐるが、就中バリギャンスク・ニコライエフスク・マロヒンガンスク・ホシェストスク・セルギエフスク・オリギンスク・スドズエの七鑛脈が有名であり、特に小ヒンガン、卽ち小興安嶺のそれが最も豐富で、最も有名である。

石炭の埋藏量は極東地方だけで三十億瓲以上に達すると推計されてゐる。スーチャン・アルチモフ・タウリチャン・チェルノフ・キヴィデンスク・ブレーヤや北樺太等に多いのであるが、極東地方埋藏量の約二分の一は黑龍江地方の流域にあり、その產炭の中心はアルチモフスクの炭田である。ソヴィエト聯邦當局は最近この地方の炭田開發に絶大な力を集中してゐるのであつて、その甲斐があつて、產額は激增を示し、一九三〇年の百六十七萬瓲から、一九三三年には二百萬瓲を突破するに至つたのである。

尙最近有名になつたのはブレーヤ炭田であつて、この炭田は千億瓲の石炭を埋藏するといふ人もある位である。ブレーヤ炭田はブレーヤ川の中流から上流にかけて一萬一千方粁の土地に亙つて擴がつてゐる。この附近は非常に寒く、樹木はブレーヤ川に沿つて僅かに落葉松・白樺・白楊が見られるが、多くはツンドラをなしてゐるのである。この炭田の炭層は平均二十米で、五十米に達するところが多い。一九三四年の八月からこの炭田の開發が始つたのであるが、これは單なる石炭採掘ではなくして、こゝに一大重工業地帶を建設せんとするものであつて、所謂ブレーヤ建設と云はれてゐるのがこれである。

このブレーヤ炭田と結合されたのが小ヒンガンの鐵鑛である。小ヒンガン、卽ち小興安嶺の東斜面にあつてウスリー鐵道に近接してゐる大鑛床であつて、約五十億瓲の鐵鑛を埋藏するかと云はれてゐる。鐵鑛の平均四八%の鐵を有し、なかには六二%を含むものもあると云ふが、南部のものは三四―四三%であると云ふ。しかもこの小ヒンガン及びこれに接近してゐる地方には建築用の鑛石や、花崗岩・斑石・耐火粘土・石灰岩等が豐富に存在してゐるのである。そこでソヴィエト聯邦當局は一九三一年このブレーヤの石炭と小ヒンガンの鐵鑛とを結合して、極東に一大重工業地帶の建設に着手したのである。

石油も極東地方の重要な鑛物資源であるが、これは專ら北樺太から出るのであつて、その他の地方では今の處石油の產出が見られないのである。しかして、ハバロフスクには一大製油工場が作られ、樺太產の石油をこゝに運送して製油してゐるのである。

工業の發達　次に工業の狀況を見るに、從來極東地方には工業の發達は殆ど見られなかつたのである。原料の不足とか、市場の狹小などがその主要な原因となつたことは云ふまでもないのであつて、從來は製粉工場やその他の地方住民の必要に應ずる家內工業を除いたならば、僅かに十位の企業があつたに過ぎないのである。然るに、第一次五ヶ年計劃の實施以後の工業的發展は實に目覺ましいものがある。尤もこの地方の工業建設は上述の鑛物資源の獲得と製

錬とも含んではゐるのであるが、一九三〇―三四年の間に金屬工業に投資した資本は實に十九億七千萬ルーブルの巨額に達して居り、同期間に全極東地方に投下された資本の七〇％を占めてゐるのである。かくしてこそ、一九三〇年を一〇〇とするとき、一九三四年には四三九の割合に達する生産增加を示してゐることが首肯されるのである。

極東地方の森林開拓

この方の工業では既述のプレーヤ建設や重工業や金屬加工業が最も注目さるべきものであるが、そのほか農具の製造、小麥粉の製造とか、大豆油の製造等の諸工業や、皮革工業・燐寸工業・酒精工業・醸造工業等が行はれてゐるのである。

交　通

道路　かうした諸産業の生産物の運搬や人間の往來等に關與する交通は如何。鐵道が出來るまでは水路と並んで最も重要な交通路であつた道路は現在極東地方だけで二萬八千粁もあり、殊に最近は主として軍事上の目的をもつて自動車道路の建設が著しく進捗してゐるし、自動車數も激增してゐるのである。

鐵道　鐵道としては周知のザイバイカル線とウスリー線とであつて、歐亞連絡の幹線の一つをなしてゐる。北滿鐵道讓渡後の今日ではこの鐵道の有する意義が愈〻擴大したのである。更にソヴィエト聯當局が目下大童になつて建設してゐるのがバイカルアムール鐵道、卽ちいはゆるバム鐵道である。バム鐵道は大體一九三一年頃に始めたもので、かゝる經濟上の目的のほか、滿洲國に對するためにシベリヤ鐵道を補强せんとする軍事上の目的をもつてゐるのである。前述のプレーヤ建設に關係のある鐵道はバム鐵道のウスチニマン驛とザイバイカル線のビラカン驛とを結ぶものである。この鐵道建設の進捗狀態は餘り明かにされてはゐないが、目下晝夜兼行で工事を急いでゐるのである。

航空　航空交通も最近發達し、極東地方だけで十線、六、八九二粁の航路があつて、ウラヂヴォストック・ハバロフスク・ニコライエフスク等が中心で、ヨーロッパや、樺太に航空路が通じてゐるのである。

水路　古くから重要な通路であつて、現在でも黑龍江の本支流を中心とする內陸水路は木材・穀物等は多くこれによつて運送されてゐるのである。

かくの如き交通機關の發達は極東地方の經濟的開發に必要缺くべからざる前提であつて、ソヴィエト聯邦當局が交

通の整備に大童になつてゐるのはかうした經濟上の目的も有力な導因をなしてゐるのであるが、同時にまた軍事上・國防上の目的もより以上に重要な導因となつてゐるのである。

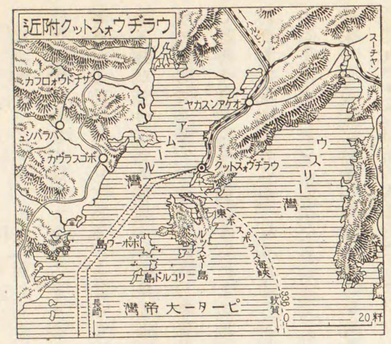
極東地方の將來性

こゝで、今まで述べたところをまとめて見ると、極東地方の產業の發達は未だ不充分であつて、今の所は原始產業を產業の前面に出してゐる、と見ることが出來るのである。これは要するに、この地帶が本質的にもつてゐる特徴的な地理的條件である僻遠の地理的位置、廣い山地と狹い平野、寒冷な大陸性氣候の三者によつてその方向が規定されてゐるのである。つまりこれ等の特徴的な地理的條件を通じてこの地帶の自然が百五十萬の住民の働きかけに應じ、これ等兩者の交互接觸のうちにこの地帶特有な產業文化が現出されてゐると見ることが出來る。

而して現在のところ、極東地方の自然も未だ必ずしも充分な力をもつて人間に働きかけず、その有する無限の自然力もまたポテンシャルな力として殘されてゐるのである。これは勿論人間が充分な文化力を以て自然に働きかけない結果であるが、將來のソヴィエト聯邦特有な社會主義的統制經濟の體制の下で有力な文化力をもつて自然に働きかける時は、この自然の本源的にもつ自然力はもつと有力に働き出し、そして自然と人間との交互接觸の間にもつと高い產業文化が展開されることは期して待つべきものがあると信ぜられるのである。

極東地方の都市

ウラヂウォストック　極東地方の、否シベリヤの關門がこのウラヂウォストックである。市はピーター大帝灣の支灣アムール・ウスリーの二灣の間に突出するムラヴィヨフ半島の南端に位し、ゾロトログ（金角灣）に沿ひ、前方にルツスキー島を控へてゐる。港は良錨地で、水深一〇米乃至二〇米、長さ六粁四、幅一粁六の廣大な港面で天然の良港をなしてゐる。しかも十二月中旬から三月までの結氷期を除けば入港は容易で、冬季も碎氷船を使用して自由に出入することが出來る。ロシヤが支那からこの地を得てから「東方の支配者」を意味するウラヂウォストックの名を與へられ、港灣の設備が整へられ、ロシヤの東方經營の根據地とされたのである。殊に一八七二年、ニコライエフスクに代つて軍港とされてからその繁榮は著しく、今日ではシベリヤ第一の商港となつて居り、大豆・豆粕・豆油・種子・木材等が主な輸出品となつてゐる。從來シベリヤのほかに北滿洲の物資の集散地として活動し、大連に向ふ貨物の一部を奪つてゐるが、北滿鐵道が滿洲國に買收され、また京圖線が開通して以來港勢は衰へる傾向を示すに至つた。併し我が國の敦賀・小樽・長崎等とは依然として定期航路を通じて居り、我が國との取引が盛んに行はれてゐる。シベリヤ鐵道はこゝから起つてシベリヤを橫斷し、ヨーロッパ本土にまで至つてゐる。この意味でもこゝは交通上最も重要な地點である。市街は港の東岸から西岸一帶に延び、丘陵地が多いので家屋は多く斜面上に階段狀に作られてゐる。最近は工業化が著しく進み、金屬工場・車輛工場・製材所・製粉工場・油脂工場・麥酒



工場等が多く建設され、又漁業關係の工場が頗る多い。

ウォロシロフ　ウラヂウォストックのすぐ北にある都會で、ウスリー鐵道と北滿鐵道との分岐點に當り、もとニコリスクと云はれたが今日ではソヴィエト聯邦國防相の名に因んでウォロシロフと改名してゐるのである。

滿洲國のポクラニチナヤに對してゐるのがこのウォロシロフである。日蘇の間に重大危機が醸成されるに從つてその軍事的意義はいよ〳〵大きくなつてゐる。が、この軍事的意義ばかりではなく、ウォロシロフは工業上も重要な意味をもつてゐる、といふのは、こゝにミコヤン紀念油脂工場がある。この工場は職工一千人以上を使用してゐる大油脂工場で、一九三五年度の生產額は油脂四千七百瓲、石鹸五千三百瓲を示してゐるのである。そのほか更にカリーニン紀念精糖工場もあり、又製粉工場・釀造工場・製材工場・機械修理工場等も設けられてゐる。ウォロシロフの附近に於て農業の割合に盛んであることはかうした工場を發達せしめてゐる一理由であるが、交通が便利なことや、附近に石炭の產があることなどがこれを促進してゐると見られるのである。

このウォロシロフの北のスパスクにはセメント工場がある。年產能力は十五萬瓲と云ふから相當な大工場である。これは附近に石灰岩の產があるから發達したのである。

アルチョム　ウォロシロフの近所にはこのやうに鑛物資源が多い。殊に石炭が一番多い。この石炭の採掘のために發達したのがアルチョムの町である。この町はウラヂウォストックの東方四十粁ばかりにある都會である。その人口は一九二六年には四千人だつたものが、今日では二萬人に及んでゐると云ふ。これは炭田開發が進捗したためであつて、アルチョムの石炭產出能力は今日では一ヶ年に二百五十萬瓲と云へば我が國最大の炭田である三池と匹敵するものであつて、三池炭田が大牟田市を、三池港を發達せしめてゐることを見れば、アルチョム市の今後の發達も期待出來るわけである。

アルチョム市の市街は整然として居り、家屋は二階建又は三階建のコンクリート造りが多いと云ふ。そこには鑛業研究所やソヴィエト政府の各機關はもとより小學校・中學校・工業學校から更に百貨店、さてはホテル・クラブ・映畫館・圖書館までも設けられてゐるのである。かくてアムール灣とウスリー灣とを一望のうちに收め得られる好位置に位してゐるこの町は、今後石炭採取の發展とともに輝しい將來が約束されてゐると云ふことが出來るのである。

ハバロフスク　三十萬の大軍、一千二百臺の飛行機と戰車、五百臺の裝甲自動車からなると云ふ極東特別赤軍の總司令官ブリュヘル元帥が蟠居し、滿洲國侵入の機會を狙つてゐる所こそハバロフスク市である。

滿洲國の東北部が三角形をなして東北に向つて突出してゐるその頂點に位してゐるのがハバロフスクである。アムール川の左岸、この川と支流のウスリー江との會合點から下流四十七粁に位してゐる。だから、國境河川アムールの樞要な地位を占めてゐる河港である。アムール川を溯れば問題のブラゴヴェシチェンスクを始め、上流の諸都市、或は松花江を溯れば佳木斯、哈爾濱を始めとして滿洲國の諸都市をへて、その中心地帶に、ウスリー江を溯ればその上流の豐沃な地に入ることが出來る。又アムールを下ればニコライエフスクをへてオホーツク海に出ることが出來る。更にアムール・ウスリー兩鐵道はこゝで合してゐるといふやうなわけで、ハバロフスクは極東地方の死命を制するやうな樞軸的な位置を占めてゐる。こゝに極東地方の首府がおかれ、極東赤軍司令部が設けられてゐるのはけだし偶然ではないのである。

ハバロフスクは昔は毛皮の集散地として將又金坑勞働者の足溜りの場所となつた小さな田舍町に過ぎなかつた。一九二四年に極東地方の首府となつて、今日の發達の基礎を築いたのであるが、一九二六年頃でさへ、その人口は四萬四千人に過ぎなかつたのである。然るに五ケ年計劃、特に第二次五ヶ年計劃の實施以來の發達は目覺ましく、今日では二十萬に近い人口をもつてゐると云はれてゐる。

之はハバロフスクが尨大な極東赤軍の作戰根據地としての軍都の故である事は云ふまでもないが、工業化の躍進も發展の原動力である。モロトフ紀念農具工場、カガノウィッチ紀念自動車修繕工場、キーロフ紀念造船工場、オルジョニキーゼ製油工場等が續々と建設されてゐる。

このオルジョニキーゼ製油工場は北樺太の石油を精製するので、その生產能力は第一期二十九萬五千噸、第二期四十萬噸である。そのほか製粉・製材・釀造等の工場があり一九二三年から三六年までに投じた資本は實に四千萬ルーブルを越えて居り、今日ではハバロフスクの工業生產額は一億ルーブルにも達してゐるのである。しかしてこれ等の工場は概ね軍需工業であつて、その發展は極東赤軍の能力を益々强化するものであることは云ふまでもない。

かくして、ハバロフスク市は今日では極東地方第一の工業中心地となつて居る。そしてこゝからウラヂヴォストックへも、コムソモリスクへも、ビロビヂアンへもアレキサンドロフスクにも航空路を通じ、又コムソモリスクへは延長四百粁の鐵道を建設中である。ウラヂヴォストックへの八百粁の間には坦々たる自動車道路を通じ、乘合自動車は僅か十三時間でこれを走破することが出來る。滿蘇國境線上の空が暗澹たる折柄ハバロフスクのもつ意義は愈〻大なものがある。

ダリストロイ　ロシヤ共和國に屬するシベリヤのヤクート自治共和國と極東地方との境界たるスタノヴォイ山脈はヤブロノイ山脈から東北に延びてゐるもので、その東端はチュクチ半島にまで達してゐる。この山脈の蟠る地方には金と鉛とが多量に埋藏されてゐる。そこでこれを中心として建設を進められてゐるのがこゝに揭げたダリストロイ、つまりコルイマの企業地帶である。これは北緯六〇度の酷寒の地に冶金を中心として企業地を建設しようといふのである。

建設に着手したのは一九三〇年と云ふことである。先づオホーツク海の最北の地にノガエヴォ及マガダンといふ二つの町が建設された。この地は最初は無人の境地であつたが、今やマガダンの町は一萬の人口をもち、ベーリング海から太平洋に出る船舶の最初の寄港地となつてゐるのである。

最初の建設隊がこゝに乘りこんだ時には、無人の境地のことゝて、一切の建設材料と、建設隊自身の住家として組立家屋を二十棟も持つて行つた程であると云ふ。ところが、今日ではマガダンの町には石造四階建の小學校や工業學校、さては圖書館・劇場・映畫館・クラブと云つたやうな文化的設備までも具備してゐる有樣である。

何分にも僻遠の地である。ソヴィエト聯邦當局はダリストロイの交通機關の建設に最大の力を注いでゐる。港の設備にも備へ、船舶によつてウラヂヴォストックその他と往來出來るやうにした。航空路もシベリヤの要地に通じてゐる。更にコルイマ街道と稱される延長五百粁の自動車道路を建設した。一九三二年にマガダンからエレクチャン間の道路の建設に着手し、一九三五年にはこれが全部完成したのであつて、こゝにもソヴィエト聯邦特有の急テンポの建設が見られるのである。

このコルイマ街道は北方の鑛區とノガエウオ及びマガダンとを結びつける役目を果してゐるものであつて、この大規模な道路建設によつてもコルイマの鑛物資源が如何に大きいものであるかゞ察せられるのである。

ダリストロイは目下建設途上にあるので、今のところ企業の如きも少いやうであるが、現在既に自動車修理工場・亞鉛板工場・皮革工場・煉瓦工場・製材工場・發電所等が設けられてゐる。今後も建設が續けられ、一九三八年度中にはソヴィエト聯邦屈指の採金コンビナートが完成される豫定であると云ふ。

ダリストロイは結局原料が豐富に準備されてゐると云へよう。が、これに加ふるに附近にズイリャンカと云ふ石炭埋藏地があるので燃料の供給にも心配がないわけである。とにかく、オホーツク海の北岸にさへこんなものが建設されてゐるのである。

オホーツク　オホーツク灣頭にあり、古くから漁港として知られてゐる。

ブラゴヴェシチェンスク　黑龍江の本流と支流のゼーヤ川との會合點にあり、水運の利を集め、ゼーヤ川流域の農・林產地と砂金の產地とを控へ、これらの物資の集散が行はれ、また滿洲國の黑河・愛琿方面との貿易が行はれる。製粉・燐寸・鐵・材木等の工業も行はれる。この町はムラビョフアムルースキーによつて建設された極東地方で古い都會で軍事的に極めて樞要な地位を占めてゐる都市である。

ゼーヤ　ブラゴヴェシチェンスクの北方、ゼーヤ川の上流にある砂金產地の中心都市である。

ニコライエフスク　所謂尼港で、黑龍江を海から三八粁遡つた地點にある。漁業の根據地で、また黑龍江地方の物資の集散地である。夏季の漁業季節には邦人漁夫が二―三千人も集つて來る。開港場であり、また地方政治の中心地である。こゝはまた大戰當時本邦人約七百名がパルチザンのために虐殺されたといふ悲慘事のあつた所である。

アレキサンドロフスク　所謂亞港で、北樺太の西岸に位し、北樺太唯一の都市である。夏季はこゝからウラヂウォストック及びニコライエフスクと定期航路を通じ、冬季は氷上を橇がニコライエフスクとの間を往復してゐる。從來こゝには年二回定期市が開かれて毛皮・家畜等の集散が行はれてゐたのである。

二　カムチャツカの自然と經濟

自然地理のスケッチ

カムチャツカの重要性　ソヴィエト聯邦領シベリヤの東端から南下して千島列島に迫るカムチャツカ半島――しかもその東はアラスカからはるか西方に突出する米領アリューシャン列島に連なつてゐるカムチャツカ半島、アジヤの空に暗雲が棚引き、太平洋の波が立ち騷いでゐる今日、このカムチャツカ半島は軍事上重大な意義をもつてゐる。

その沿海に世界最大漁場をもつて居り、鮭・鱒・蟹等の漁獲をめぐつて、日蘇の間に毎年恒例のやうな事件を起すことを以て人口に膾炙してゐたカムチャツカ半島は、非常時の愈〻激化しつゝある今日、經濟上のほかに軍事的にも世界の關心を集めつゝある地方である。

カムチャツカ半島は今日ではソヴィエト聯邦の盟主ロシヤ共和國に屬する極東地方のカムチャツカ管區に屬してゐる。カムチャツカ管區はカムチャツカ半島のほかに北はベーリング海峽から北極海の沿岸地方までの地方を包含して、面積

は實に百五十萬方粁に及んでゐるのである。

地形上の特色　對日戰略上のことを思つて、今日ではソヴィエト聯邦當局はカムチャツカの事情を絶對に祕密にしようと努力してゐるのであるが、カムチャツカ半島と聞けば、誰でもあの數多くの火山を思ふ。カムチャツカは火山の國である。

カムチャツカの火山

カムチャツカは山嶽の重疊する地方であつて、これこそカムチャツカの地理的な特色の第一に數へられるのである。特にカムチャツカ半島にあつては中央カムチャツカ山脈が半島の中央部を南北に走つて半島を東部と西部とに分つ脊梁山脈となつてゐるのである。更に半島の東部にあつては、東山脈が中央山脈に平行して走つてゐるのである。山岳は三千呎乃至五千呎と云ふから、さまで高いわけではないが、著しく嶮岨である。しかしてカムチャツカには我が千島列島を走る千島火山帶の延長である火山帶が走つて、數多の火山を噴出させて居り、現に活火山が十七、休火山が五十七も數へられるのである。活火山のうちではアワンチ（二、七二〇米）、コリヤツカヤ（三、四六二米）、ウイリユチンスカヤ・クロノツカヤ（三、三三二米）、クリュチエフスカヤ（五、〇〇〇米）等が有名であり、殊にクリュチエフスカヤ火山の如きはユーラジヤ最高の火山であり、又この火山帶に沿うて幾多の溫泉が湧出してゐる。

カムチャツカ半島の河川は何れも中央の山脈に發源して東と西とに向つて流れ、ベーリング海とオホーツク海とに注いでゐる。かうした地形の關係で、長大な河川は少く、最大のカムチャツカ川も延長七百粁であるが、小さい川は頗る多く、特にオホーツク海斜面に著しいのである。

湖沼としては面積二千方粁に達するクロノツ湖が最も大きいが、そのほかにも多數あり、而もその多くは火山湖であるのは火山國カムチャツカにふさはしい。

海岸の出入を見るに、オホーツク海岸は出入に乏しいが、ベーリング海岸は出入が多く、ペトロパウロフスク港のあるアワチンスカヤ灣を第一として良港に富んでゐる。

寒冷な氣候　北緯五十度以北に位し、しかも沿岸は寒流に洗はれてゐるので、氣候は寒帶性を示し、氣溫は著しく低いのである。例へばペトロパウロフスクの平均氣溫は二月零下一〇・二度、八月一六・七度、年平均二・一度であつて、シベリヤ內部よりは著しくないと云へ、同緯度の他の地方に比較すれば酷寒といはなければならないのである。雨量は比較的に多く、ペトロパウロフスクの年雨量は一千二百粍位である。降雪の著しいのが特色であつて、十月から四月までの冬季は北及び西の風が著しい吹雪をもたらし、全地方が雪に蔽はれてしまふのであつて、この時季は人間の活動はもとより生物の活動が窒息せしめられるのである。

氣候の關係で植物は乏しく、樅・落葉松・白樺・ハンノ木・西洋杉等の寒帶性の樹木もあるが、蘚苔や灌木の生じてゐる處が多いのである。海棲の植物には昆布が著しく、動物には鮭・鱒・蟹等が多い。尙森林の毛皮獸は有名である。

かうした自然地理をもつカムチャツカに於て、この地方の經濟的・文化的發達の方向を規定する支配的な地理的條件

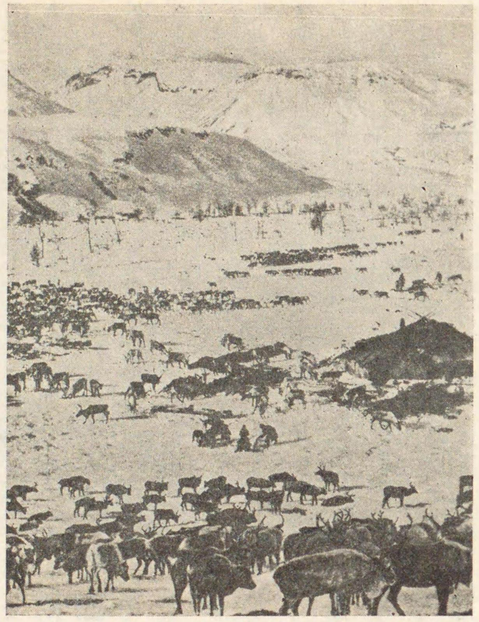
としては、

一、土地の僻遠性
二、山嶽の重疊する地形
三、酷寒の氣候

の三條件が指摘される。カムチャツカの經濟文化はかゝる地理的條件を通じてこの地方の自然と人間との交互接觸の間に生れたものと見ることが出來るのである。

カムチャツカの資源

カムチャツカの住民　カムチャツカの經濟文化の現狀を略述するに先立つてこの地方の經濟文化の一方的な支持者である住民について述べるに、カムチャツカ管區の定住者は僅か四萬五千人位で、面積の廣大なのに比較して稀薄そのものである。住民はロシヤ人と土人とから成つて居り、土人には約一萬一千七百人のチュクチ人、約七千八百八十人のギリヤーク人、約八百五十人のイテルメン人、約一千三百七十人のエスキモー人、約三百人のアレウート人、約八百人のチュワネツ人及びユカギル人、約一千九百人のツングース人、約一千四百人のラムート人、約四千二百人のカムチャーダール人等がある。土人のうちでカムチャーダール人とエスキモー人とは主に魚類を食糧とし、他は多く馴鹿の肉や海獸類を常食としてゐるのであつて、何れも原始民族の文化階梯に低迷してゐると云つても差支へないのである。尙カムチャツカの人口は夏季の漁期に多數の漁夫が來集するために俄かに激增する。カムチャツカの今日の發達は從來から住んで居つた土人によるのではなくて、主にかうした漁期に於ける季節的移住者と少數の移住ロシヤ人とに因ると見ることが出來るのである。



馴鹿の群

不振の産業　次にカムチャツカの産業を見るに、この地方は氣候が酷寒で、冬季は地表が凍結し、しかもその解けてゐる時季が短いので農業は頗る不振であつて、移住ロシヤ人が麥類・亞麻・馬鈴薯・大根・人蔘・キャベツ・甜菜等を栽培してゐるが、何れもその產額はとるに足りない狀態で、かうした農產食料の自給の確立は今日のカムチャツカの當面の重大問題となつてゐるのである。今日この地方の農場も著しく近代化し、トラクターも移入され、千六百ヘクタールの耕地のうち千五百ヘクタールは官營農場化、集團農場化してゐるのであるが、如何せん地理的條件の不良は農業の盛大な發展を阻止してゐるのである。

牧畜は約百萬頭の馴鹿と約七萬頭餘の犬の飼養であつて、牛・馬・豚等は風土・氣候の關係で繁殖の見込みがないのである。カムチャツカの土人は遊牧民で、馴鹿の所有數で貧富の別が立てられるのであつて、富者は一人で平均一千四百頭、中流以下は平均百頭をもつてゐる。馴鹿の肉と乳とは土人の主食となり、皮は衣服・靴・テントの材料となる。犬は唯一の交通機關たる橇を曳かせるほか、荷物の運搬や狩獵等の用に供されてゐる。

カムチャツカの森林面積は約二十二萬方粁といはれるが、製材事業は頗る不振で、建築用材の如きはウラヂヴォストックから供給を仰いで居り、たゞ樽材や造船材についてはペトロパウロフスクほか三ケ所の製材場が製材してゐるのである。

砂金は全地方に亙つて產出すると云ふし、又石炭はコルフ灣とアナドイレ村とから少しく出ると云ふ。そのほか石油・アスベスト・銅・モリブテン・白金・水銀・硫黄・銀・鉛・亞鉛等が埋藏されてゐると云ふが、どれも今日のところでは採取とその利用が進んでゐないのである。

工業も皮革・罐詰用罐・漁網・煉瓦・陶器等の製造が行はれてゐると云ふが、何れも全く不振である。

ひとり氣を吐く漁業　かうした不振の產業の中にあつて、ひとり氣を吐いてゐるのは漁業であつて、これこそカムチャツカの基本的な資源である。近海の世界の最大漁場から獲れる魚類は氣候的條件に左右されて、鮭・鱒・鰊・鱈・蟹等の寒海產の魚族を主とする。沿海での最大漁場は西岸のオホーツク海岸であり、東海岸ではアフチンスカヤ灣・カムチャツカ川附近、オゼルナヤ岬からオリュストルスキー岬までの沿岸である。五月頃から十月頃までの漁期には漁業者が來襲するのであるが、沿岸で最も手廣く漁業に從事してゐるものは我が漁業者とソヴィエト聯邦政府國營のカムチャツカ會社、所謂アコ會社とである。沿岸の土人も漁業に從事してゐるが、彼等が每年食用に供する魚類は價額に見積つて三十六萬ルーブル、飼犬の飼料とするものが約四十三萬ルーブルだと云ふ。

コマンドルル島の膃肭獸

現在一ケ年の漁獲高は約四萬二千噸で、カムチャツカはソヴィエト聯邦第一の漁場となつてゐる。魚類の大部分は鮭であつて、その一部は鹽藏とされるが、大部分は罐詰にし、又魚卵はイクラとされて居り、その罐詰工場は十六ケ所に及んでゐるのである。一九三四年の鮭罐詰製造高は三十四萬函、蟹罐詰製造高は七千九百函であつて、我が國の製造高には及ばないが、世界でも一流の地位を占めてゐるのである。しかもソヴィエト聯邦政府當局はこれが增產に力を集中してゐるのであつて、これが本邦漁業家よりの漁區の奪取强行となつて、日蘇の間は紛爭の禍因を醸成する一因となつてゐるのである。

尙カムチャツカの水產物として有名なのは海獸である。オホーツク海・ベーリング海に繁殖する海獸には膃肭獸・海

クスフロウパロトペ

象・アシカ・鯨等がある。殊にカムチャツカ半島の東方にあるコマンドル島は腦納獸の繁殖場として世界に有名である。

商業と交通　かうした物資の配給に關して商業が起るのであるが、カムチャツカに於ても、ソヴィエト聯邦の他の地方と同じやうに、私營商業が排せられて、國營商業の發展がはかられてゐるので物資の配給機關はあるが、本來の意味の商業は全く不振である。土人の如きは今日も尙原始的な經濟生活を營んでゐるので、物々交換が行はれてゐる有樣である。尙ソヴィエト聯邦政府當局では各市に歲市を開かうと計劃してゐると云ふ。

次に交通の狀況を見るに、位置が僻遠であり、又地形氣候も不良なために、交通は全く不便で、陸上には道路がなく、海上の往來も困難であつて、夏季は海路と河川とによつて、冬季は犬と馴鹿とによつて曳かせる橇によつて往來するのである。

都市　かくの如き經濟文化の結晶と見られる都市としては人口約五千のペトロパウロフスクがあるのみである。市は一七四〇年に建設されたもので、カムチャツカの行政・文化・經濟の中心で、ソヴィエト聯邦が極東にもつ唯一の不凍港である。我が領事館があつて、夏季だけ開催されるのも漁業者の季節的來集を物語つてゐる。

カムチャツカの將來性　これを要するに、カムチャツカの土地の偏遠性・山嶽性・氣候の酷寒性等の地理的條件に制約されて、未だ文化の發達は極めて初期の段階にあるのであつて、目下經濟文化は土地の直接的利用と云ふよりは魚族の採取のみを前面に出してゐるのであつて、今後冬眠中の資源が開拓されるとしても、その著しい發達は餘程困難であると信ぜられるのである。

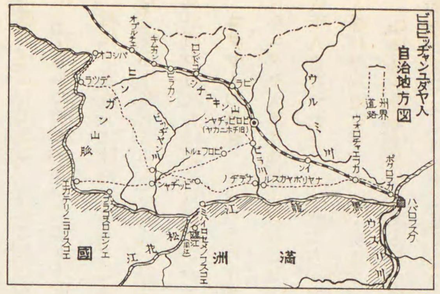
三　ビロビヂャン共和國

滿蘇接壤地帶の共和國

ユダヤ人の故國　滿蘇國境河川アムール川の流れは狂亂怒濤に湧き立つてゐる。そのアムール川の彼岸にユダヤ人自治州が作られてゐる。滿洲國の東北隅、松花江がアムール川に合流する附近、そこは確かにソヴィエト聯邦から滿洲國に侵入する第一のギャップである。だからウスリー江とアムール川との合流點の彼方ハバロフスクに極東特別軍總司令部が設けられ、ソヴィエト聯邦の猛將ブリュッヘル元帥が虎視耽々と滿洲國を狙つてゐる。從つてまたこゝは日滿

軍が赤軍打倒のためには進撃すべき通路に當つてゐるわけである。

ユダヤ人といへば祖國をもたぬ流浪の民族として有名である。彼等はヨーロッパを中心として世界に分散して居つた。帝政時代ロシヤには約六百萬のユダヤ人が居住し、帝制政府の苛酷を極めた抑壓に呻吟して居つた。ロシヤばかりではなく、どこの國でもユダヤ人は排斥されて居つたのである。



世界大戰後パレスチナにイギリスの保護の下にユダヤ人の國が建設された。世界のユダヤ人はこの地に集つて新國家の完成に力を盡してゐることは周知の通りである。これとは別に、ソヴィエト聯邦は一九二八年三月極東地方のビロビヂャン地方をユダヤ人の移住地とする旨を發表した。それに基いて建設されたのが俗稱ビロビヂャン共和國、正確に云へば極東ユダヤ人自治地方である。ソヴィエト聯邦内のユダヤ人ばかりでなく、國外のユダヤ人もこゝに移住してゐる。つまり滿洲國國境の彼岸、軍略上の要地に、世界のユダヤ人を背景とするユダヤ人自治州が作られつゝあるのである。それが對日作戰を考慮してゐることは誰にも想像出來よう。現に一九三四年の同自治州組織委員會議上に、赤軍代表ブロートニコフは「ユダヤ人自治州をしてアムール川岸に於けるソヴィエト聯邦の搖ぎなき前哨地となすべきことを確信する」と叫んでゐるのである。

自然　ビロビヂャンの地名はアムール川の支流のビラ川とビッヂャン川とから出てゐるだけあつて、この兩河の流域、

約八萬方粁の地がビロビヂャン共和國となつてゐる。八萬方粁といへば、かのユダヤ人の民族的鄉土と稱されてゐるパレスチナの二萬六千方粁の三倍に當つてゐる。

アムール川・ツングウスカ川・ビラ川・ビッヂャン川等の流域には低い平原があるが、西北一帶には小興安嶺、ブレーヤ山脈が連亙してゐる。但しこれらの山地も海拔九百米を越えない低山である。又諸川の流域にも小山脈が起伏してゐる。尙低地は排水が惡く、濕地が到る處に見られ、これがこの地方に於ける農業の發達を阻害してゐる。

氣候は寒冷で大陸性である。低地の平均氣溫は七月二〇・八度、一月零下二二・九度、山地のそれは最高月一八・九度、最低月零下二五・五度といふ有樣である。夏の季節風が東方から吹いて來る時期には雨が少くないが、冬の季節風が西から吹く時期には雨雪が少く、天氣が續くのである。

ユダヤ人の移住　このやうな土地に居住してユダヤ人共和國を建設しつゝある人々はどの位あるかと云ふに一九二八年ユダヤ人移住地指定以前はユダヤ人・朝鮮人・ロシヤ人等合計三萬三千人ばかりであつたが、一九三三年には六萬四千人となつたといふ。だから今日ではもつと多いのに違ひない。こゝに居住するユダヤ人約一萬四千で、ソヴィエト聯邦のみならず、米・獨・佛・波・パレスチナ等から來てゐるものは少くないのである。

これだけの居住者が八萬方粁の廣大な土地を開拓しようとしてゐるのである。だからソヴィエト聯邦お得意の强制勞働を以てしても中々に進まないのも無理ではない。

ビロビヂャンの産業　ビロビヂャンの可耕地は約二百萬ヘクタールつまり二萬方粁と計上されてゐるが、現在ではその一%乃至二%しか開拓されず、耕地面積は三萬二千五百ヘクタールに過ぎない。農家の八五%はコルホーズ（集團

農場）化され、又ソホーズ（國營農場）も五を數へてゐる。作物は大麥・小麥・黍・大豆・馬鈴薯・亞麻・米・高粱・棉花等である。

牧畜は割合に盛で、一萬一千五百の牛、一萬二千の豚、一萬の馬等が飼養され、又養蜂が行はれてゐる。

森林は千古斧鉞の入らない大原始林で、現在の所ビロビヂャン第一の天然資源と稱されてゐる。河川に近い森林は少しづゝ開拓されてゐるが、これが充分な開拓は未だ近いことではあるまい。尙この森林からシベリヤ特有の貴重な毛皮獸が獲得されてゐる。

鑛物資源としては小興安嶺を中心とした鐵鑛を第一として石炭・泥炭・黑鉛・石綿・雲母・マグネサイト・石灰岩等がある。このうち金は砂金で、約一千名のものがその採取に從事してゐるが、採取法は原始的である。

工業はソヴィエト聯邦當局の最も力を入れてゐる產業で、冶金工場・車輛工場・ミシン工場・メリヤス工場・精米工場・製糖工場・釀造工場・罐詰工場・製油工場・製靴工場等の工場が續々と建設されつゝある。

鐵道にはアムール鐵道がある。カリムスカヤからハバロフスクに至るこの鐵道が域內の唯一の鐵道で、ビロビヂャン內には九驛が設けられてゐる。最近その複線化が完成したので、ビロビヂャンの經濟的・文化的發達が著しく促進されるものと信ぜられる。

アムール川沿岸のアムール大道路のほか若干の道路があるが、道路は今の所概ね不完全で、所謂自然路に過ぎない有樣である。從つて交通は鐵道のほかではアムールの本支流の水運にたよる處が多いのである。

都　市

ビロビヂャンの聚落は概ね河川に沿つて發達してゐる。都市と云はるべきものは首府ビロビヂャン市で、他の都市は何れも二―三千の人口をもつに過ぎないのである。

ビロビヂャン市はかつてチーホニカヤと呼ばれ、一九三二年頃まではアムール鐵道の一寒村驛で、人口も僅かに二百に過ぎなかつた。しかし現在は約一萬三千の人口をもつ都市となつてゐる。しかもソヴィエト聯邦政府はビロビヂャン市を將來は極東地方に於ける屈指の工業文化都市となさうとして、都市計劃をたて、一九三四年には五百萬ルーブル、一九三五年には一千三百萬ルーブルの巨資を投じてその建設に努力してゐるのである。

更にソヴィエト聯邦はこの地方に諸種の學校や病院・ホテル・劇場等を建設し、その文化的な開發をはかつてゐる。かくてビロビヂャン共和國はその豐かな天然資源に惠まれて着々と經濟的に、文化的に發展を續けてゐるやうである。

だが、それが果してユダヤ人の天國となるか、といふ問題になると疑問なのである。强制勞働に堪へ切れないで國境監視のゲ・ペ・ウの嚴重な目を逃れて生命からく滿洲國側に脫走して來る者が絕えないといふ。パレスチナに失望してビロビヂャンに移住したユダヤ人が少くないと云ふが、彼等がそこに安樂の鄕土を見出したとは何人も斷言出來ないやうである。アムールの河岸にはトーチカの物々しい防備が連なり、ソヴィエト聯邦監視哨は四六時中滿洲國側に警戒の目を見張つてゐる。確かにビロビヂャンはアムール河岸に於けるソヴィエト聯邦のゆるぎなき前哨地であると斷言出來るのである。

四　ブリヤートモンゴル

ブリヤート蒙古自治共和國

ブリヤートモンゴルつまりブリヤート蒙古はバイカル湖東方の一帶の地を占める共和國で、ロシヤ共和國に屬するが自治を許されてゐるので、ブリヤート蒙古自治共和國と稱してゐる。この國の面積は三十九萬方粁ばかりであるから、我が內地と殆ど等しいわけである。併し人口は恐ろしく少く僅かに五十六萬人に過ぎないのである。

住民の三九%つまり二十二萬ばかりはブリヤート蒙古人である。次にスラブ人が最も多く、又ツングース人・ユダヤ人・ポーランド人・支那人等が居住してゐる。

ブリヤート蒙古人は蒙古民族の一派で、更にブラガット・エヒリト・ホリネツの三種族に分けられる。ブラガット・エリヒトの二種族はバイカル湖の西北に接近して居住して居り、ホリネツ人はその他の地方に居住してゐる。ブリヤート蒙古人は元來は遊牧民族で、天幕生活を行ひ、極めて低級な生活を營んでゐる。併し、最近は次第に定住し、農業を營むやうになつて來た。殊に西方に住む者は農業が主要な生業となつてゐるのである。かくの如くに、ブリヤートモンゴルにはスラヴ人とは違つたブリヤート蒙古人が住み、これが主たる種族となつてゐる關係で、ソヴィエト聯邦政府はブリヤートモンゴルをロシヤ共和國內の自治共和國とし、形式的にはある程度の獨立性を認めてゐるのである。

自然的條件

地勢　ブリヤートモンゴル共和國の地勢はバイカル湖を境としてその西方と東方とでは著しく異なつてゐる。卽ちバイカル湖以西は中部シベリヤ高原の東南部を占め、海拔三百三十米乃至四百五十米の高臺をなして居り、たゞアンガラ・レナ兩川の流域は低く、二百米乃至二百五十米であるが、一帶にステップ性である。又バイカル湖の東方・南方は概して山岳臺地で、南境の東サヤン山脈中には萬年雪帶があり、最高峰は三、五〇〇米を越えてゐる。

氣候　海洋から遠く離れてゐる關係で大陸性であり、又北方に位する上に土地の高度が高いので、氣候は概して寒冷である。一年の平均氣溫は零下八・三度と〇・七度との間にあつて、寒帶性氣候たることを示し、又一年間の氣溫較差も華氏八〇度乃至八八度に達して、大陸性氣候たることがハッキリと看取されるのである。かくて、一年のうち植物の成育することの出來る期間は六十日乃至百五十五日位に過ぎない。又雨量も少く、百五十粍位から六百三十粍位までの間である。しかしてこの雨の大部分は夏季に降り、冬の積雪は著しいものがない。かくの如くに雨が少いために農耕は著しく阻害されてゐるのである。

產業

牧畜　かうした氣候的・風土的條件によつて想像されるやうに、ブリヤートモンゴルの產業のうちで、これまで壓倒的に重要であつたのは牧畜である。今日では農耕化が進んではゐるが、やはり第一の產業と云ふべく、殊に西部地

方では全農産物の五割以上は畜産で占められてゐるのである。帝政時代ブリヤートモンゴルの牧畜はロシヤ側の壓迫のために衰退の傾向を示したが、ソヴィエト政權下に入り、共和國を建設してからは家畜數も漸次增加した。然るに一九三〇年頃からは家畜が減少してゐる。この間に例の國營牧場化・共營牧場化が强行せられたことは注目すべきことである。而して今日でも、この地方の牧畜は概ね原始的方法で、放牧を主とするものである。

農業　共和國建設當初は農業は極めて不振であつたが、一九二四年以後非常な勢で發達し、それと同時に定住生活が普及し、今日では遊牧農民家族總數の二五％、半遊牧農民家族總數の三一％は定住化してゐるのである。この間に耕地面積は約四千萬ヘクタールになつたが、また同時に農業の社會化が著しく進み、今日では共營農場は全耕地の四分の三を占めて居るのである。又農業の機械化も著しく、農法の高度化が進み、作物の收穫率も甚だしく向上したのである。主な作物は稞麥・小麥・燕麥・大麥・蕎麥・馬鈴薯その他若干の工藝用作物等である。

林業　共和國全面積の七八％は森林であり、而もその三分の二以上は利用可能の森林であつて、年產二百萬立方米ばかりの木材を出してゐる。主な樹種は松・落葉松で、ほかに樅・蝦夷松・白楊等がある。

鑛產　鑛產資源も頗る多く、その第一は鐵鑛である。ムイソフ・ハンダカイの兩鑛山、ボルソイ鑛床・クウルビンスキー鑛山等があり、共和國の首府ウランウダはこの鐵鑛產地の中心に位してゐるのである。

石炭の埋藏はバイカル湖東南岸のバイカル炭田、ウランウダ市近郊のムーヒンスコエ炭田、ウランウダ市東方百八十粁のタルバガタイスコエ炭田、南方一一八粁のグシノエ湖炭田等があるが、今の所では產額が少く、この地方では木材を燃料として盛んに使用してゐるのである。

そのほかバイカル湖東北沿岸の石油を始め、金・銀・鉛・亞鉛・銅・マンガン・明礬石・石墨・雲母・石膏・石綿・螢石等が埋藏されてゐることがわかつてゐるが、それ等のものゝ開發は餘り進んでゐない。

水力資源　バイカル湖に注ぐ三百有餘の河川は豐富な水力を持つてゐる。殊にセレンガ川・スネジナヤ川が最も多く、セレンガ川の如きは百萬キロワットの水力發電所を設けることが出來ると云ふ。そのほかテムニック川・オロンゴイ川・マントウリハ川・イルクト川・ビチム川等は何れも數萬キロワットの水力發電所を設置することが出來る。

最近工業化が進み、機械・製材・製肉・製粉・車輛修理・硝子等の工場が續設されてゐる。しかしてこれ等の工場は何れも國營であつて、その中心となつてゐるのが首府のウランウダである。

ブリヤートモンゴルの交通は未だ幼稚であつて、鐵道の如きは僅かに五百三十粁ばかりに過ぎず、面積がこれより も一寸少い我が內地に二萬粁の鐵道があるのに比較して如何に少いかゞわかるのである。共和國建設以來自動車も素晴らしい發達を遂げてゐるし、又水運も比較的に進んでゐる。共和國の水路の全延長は八千五百粁であるが、うち三千五百粁は航行可能で、今日二千粁以上が利用されてゐる。これに當る船舶は國有である。たゞこの國の河川の缺點は十月末から四月始まで結氷することである。

これを以てブリヤートモンゴルの現狀を概觀したわけであるが、外蒙古に接して、蒙古人の一派がソヴィエト聯邦內の一自治共和國として發展を續けてゐることは我々日本人として注目しなければならないのである。

ウランウダ

ウランウダはバイカル湖の東方、シベリヤ鐵道に沿つて居る外蒙古に至る要地に當り、現在ではこゝからウランバートルまで自動車・航空路が通じてゐる。ウランウダの發展の一因は確かにこの交通上の要地にあることである。

ウランウダが交通上の要地にあればこそ、こゝにソヴィエト聯邦でさへ屈指の汽關車車輛工場が建設されてゐるのである。この工場の生産能力は、一ケ年に機關車修理一千臺、貨車製作二萬二千臺、客車製作二千臺と云ふ尨大なものであつて、シベリヤ鐵道の複線化が完成されるとともに重要な役割を果すものである。

車輛工場ばかりでなく、ソヴィエト聯邦當局はほかにも莫大な資金を投じて、ウランウダの工業化に力を注いでゐる。例へば銑鐵鑄物工場や、機械修理工場を設けたり、又硝子工場から麥酒工場・製肉工場までも設けられてゐるのである。が、ウランウダの工業は大體重工業に重點があることがわかる。しかしてウランウダに重工業の發展を促進してゐるのは、市が鐵鑛出産地の中心に當つてゐることによるのである。

ウランウダの東南にはペスチヤナヤゴラ（砂山）とか云ふ鐵山がある。この鐵山は十八世紀から今日に至るまで採鑛されてゐるのである。東方にはムホルタラといふ所や、キジンガ・ポペレーチナヤ兩川の河畔にも鑛床が存在する。南部にはツアガンダバナと云ふところに鐵鑛が埋藏されてゐる。更に西南ではアルセンチエヴカ、西方にはムイソフスキー、北方にはオリホンスカヤ、東北にはクウルビンスキーと云ふやうな鐵山が分布してゐるのである。これ等の中ムイソフスキーの鐵鑛床は約四十萬噸ばかりを埋藏してゐるに過ぎないが、クウルビンスキー鐵山はクウルビン山岳

地方の鐵山であつて、その最大の鐵床はバルバガル鐵床で、埋藏は一億噸を下らないとか云はれてゐる。

かくウランウダが鐵鑛産地に取り圍まれてゐるといふことはこの都市に工業の發達することを促進して居り、又將來益々發展することを約束するのである。たゞ缺點としては燃料の供給がこれに伴はないことである。現在は附近の森林からの薪や、鐵道で移入される石炭によつて燃料需要を充してゐるが、將來のことを慮り、附近に水力發電所を設けるとか、炭田を開拓するとかして之を補はふと計劃されてゐる。

五　シベリヤの都市

カリムスカヤ　鐵道の分岐點に當り、交通の要地で、こゝからイルクーツクへは約一、二七一粁に當つてゐる。

チタ　チタ川の左岸にある古い都市である。本市の建設は一八二五年革命による國事犯人をこゝに追放したのに始まり、一八五一年以來ザバイカル州の主都となつてゐる。毛皮取引の一中心地である。

ウルフネウヂンスク　セレン川の右岸にあり、鐵道の要驛で、ブリヤートモンゴル共和國の首府。從來毎年二月に定期市場が開かれて毛皮の取引が行はれた。

ヤクーツク　レナ川中流の左岸にあり、ヤクーツク共和國の首府で、毛皮・マンモス象牙・魚類・家畜の取引が行はれる。

イルクーツク　バイカル湖に發するアンガラ川を下ること七二粁、その右岸にあり、ウシヤコフカ川に跨り、左岸

からイルクト川が注いでゐる。一九三〇年に新設された東シベリヤ地方の首府で、外バイカル・シベリヤ兩鐵道の連絡地である。市街はシベリヤの諸都市中最もよく整つてゐる。從來毎年十二月に年市が開かれ、毛皮・茶の取引が盛んに行はれた。市にはまた醸造・製材・製粉等の工業が行はれてゐる。

クラスノヤルスク　イェニセイ川上流の右岸にあり、南方に肥沃なミヌシンスクの平野を控へ、また附近一帯に石炭・鐵・金・雲母等の埋藏が多く、森林と毛皮獸とにも富んでゐる。かくして本市はこれら產物集散の大中心地となり、またアルタイ山脈開發の根據地として重要な都市である。

イガルカ　イェニセイ河口より千粁上流の河港である。シベリヤの北方からの開拓の根據地で、北方航路の重要地點に當つてをり、氷と原始林の地であるが、將來は百隻の船を投錨せしめ得て、將來の技術と科學とはヨーロッパの文化をこの地からシベリヤに注入し、巨量な石炭・木材その他の幾多の資源をヨーロッパに送るに至るであらう。現に氷海の突破は幾多の科學的探檢隊によつて成功した。

トムスク　オビ川の支流トム川の右岸にあり、その支流のウシャイカ川に跨り、シベリヤ鐵道の中央に當り、西シベリヤ平原の大中心地で、殊に大小の學校が多く、その數は四百に達し、博物館・圖書館等の文化的設備がよく整つて文化都市をなしてゐる。また燐寸・靴・食物・酒類等の製造も行はれ、この地方の經濟の中心をもなしてゐる。この地はもと一六〇四年トムスク塞を設けてタタール族及びキルギス族鎭撫の要地となし、一八〇四年には州政府が置かれた。鐵道の集中點と附近鐵產地の中心點とに當つて商況が盛んであつたが、最近ノヴォシビルスクの發達によりその盛況を幾分奪はれた。

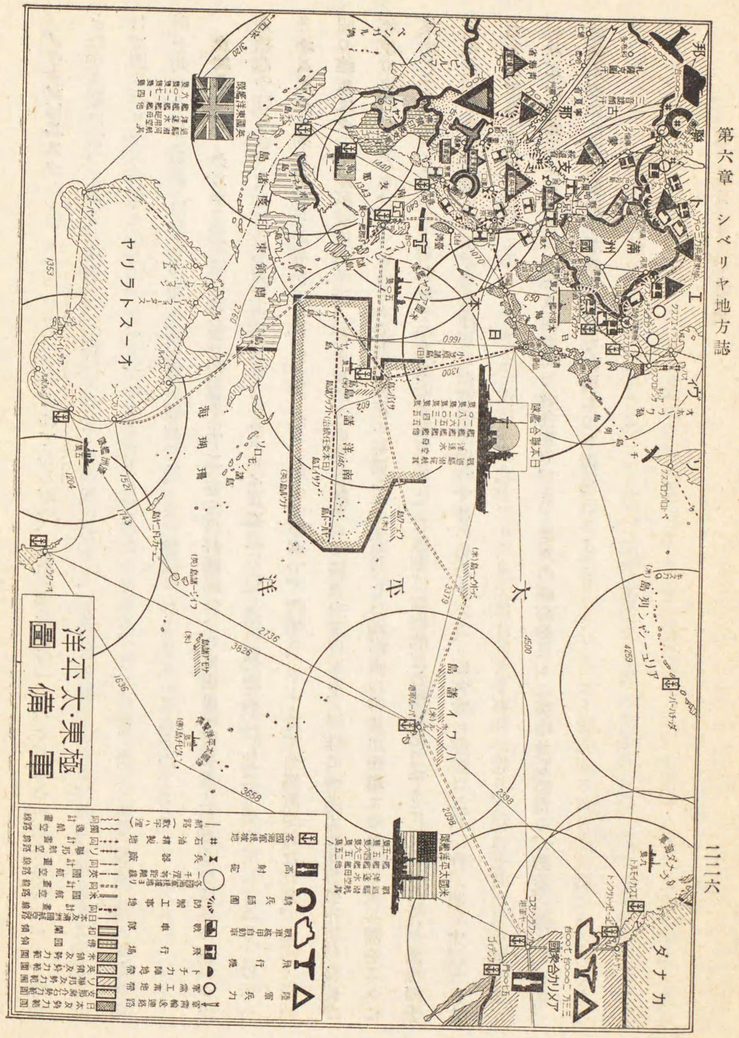
ノヴォシビルスク　シベリヤのシカゴと呼ばれてゐる町で、世界最長流の一つのオビ川と世界最長のシベリヤ鐵道との交叉點に當つてゐる。南約三二〇粁にクズネッツの炭田があり、北方に木材の海を有するこの位置がこの都市をして西シベリヤの首都たらしめ、シベリヤのシカゴたらしめたのである。こゝに世界最大の農具製造工場・火力發電所を始めとして製鐵・自動車・化學の諸工場が建設され、また建設されようとしてゐるのである。

クズネツク　クズネッツ炭田に建設された都市で二、五〇〇粁離れたウラル山麓の世界最大の鐵山マグニトゴルスクと結びつけられ、こゝに大金屬工場クズネックストロイが建設され、最近活動を開始した。

オムスク　オム川とイルチシ川との會點にあり、鐵道の要驛で、肉類・バター・皮革の集散が行はれる。

トボルスク　イルチシ川の右岸、トボル川との會合點から三粁の上流にある。罐詰の製造・漁業等が行はれ、魚類・毛皮の集散が盛んで、ウラル地方の中心をなしてゐる。こゝは一七〇八年から一八二四年までシベリヤの首府のあつた處で、その後一時はシベリヤ第一の大都市となつたことがある。この地方の侵略を行つたイェルマクの碑がある。またロシヤ最後の皇帝ニコライ二世はロシヤ革命によつてこの地のクレムリン宮殿に幽閉され、一族が悉く虐殺される不幸に遭遇した。

バルナウル　オビ川とバルナウルカ川の會合點で、トムスクの西南約三六二粁の地點にあり、附近に鐵・石炭等の鑛產が多いので、最近工業都市として勃興しつゝある。



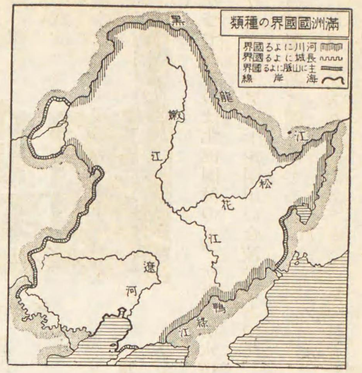
六　滿蘇國境紛爭の展開

國境紛爭前史

燃ゆる國境　あらゆる點に於て尖鋭な對立を示してゐる日蘇關係は今や風雲を呼ばうとしてゐるかに見える。この風雲急を告げようとしてゐる日蘇の接觸面は滿蘇の國境にほかならない。勿論樺太に於ても境を接してゐるとは云へそれは第二次的な意義しかもつてゐない。國家體制とその根本のイデオロギーに於て全然對遮的な日蘇の兩國は滿洲國の建設によつて滿蘇國境四千三百粁を通じて直接に接觸するに至つたのである。殊に一九三三年日蘇不可侵條約が不成立となつてからは、ソヴィエト聯邦が極東の軍備を大擴充し、日滿兩國の常備軍を越えるほどの大兵團をこゝに集中して以來、ソヴィエト聯邦はその强大な軍備を賴んで日滿側に積極的に攻勢に出るやうになつたので、國境紛爭は絶え間がなく、最近に於ける紛爭事件だけでも昭和十年に百三十六件、昭和十一年には二百三件、昭和十二年は六月までで八十六件に達してゐるのである。殊に、昭和十二年六月末には乾岔子事件が起り、更に七月には支那事變が起り、日蘇關係はいよ〳〵最惡狀態にまで爆發するかと、世界の關心をこゝに集中せしめたのである。

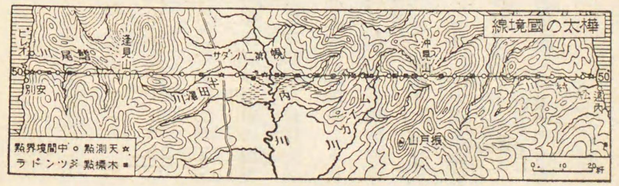
かくの如くに國境紛爭が絶え間がない根本の原因は云ふまでもなくソヴィエト聯邦側の對日滿挑戰にあるのであるが、他の一面に於ては滿蘇の國境が不明確なことにもあることも確かである。

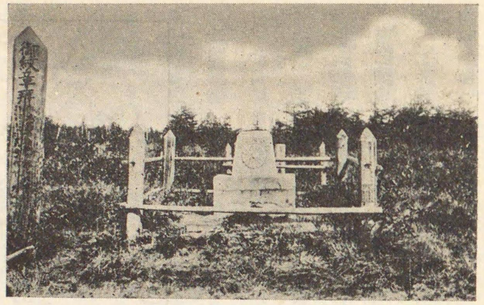
十六世紀以來シベリヤを侵略して東進を續けた帝政ロシヤは十七世紀になつて清と衝突するやうになり、一六八九



年にネルチンスク條約を以て兩國の國境を確定して以來一九二九年のハバロフスク協定以來二百五十年の間に三十餘の條約を支那との間に締結し、國境の確定を行つたのである。從つて、滿蘇兩國の國境は既存條約によつて確定されてあるかの如くに考へられるのであるが、事實は既存條約の條文は至つて簡單・粗雜である上に、概ね紙上協定に過ぎないのであつて、政治地理學で云ふところの標準線にほかならないのである。その上國境標碑を設けた所すらもその標碑が失はれてゐるものが多いのである。つまり、滿蘇の國境は今後現場で實地調査を行つた上に決定されなければならないものが多い。と云ふよりはむしろ四千三百粁に亙る滿蘇の國境のなかで、現在疑問のない程に明確になつてゐる所は一ケ所もないと云つた方が適當なのである。さればこそ、一九二四年の蘇支協定及び奉露協定も、滿蘇の國境線は不明確であるから更に調査の上確定すべきである、と規定してゐるのである。

かくの如くに滿蘇の國境紛爭は必ずしも今日に始まつたものではなく、實に舊時代から引きつがれた問題である。しかもこの紛爭は條約の不備によることは云ふまでもないのであるが、

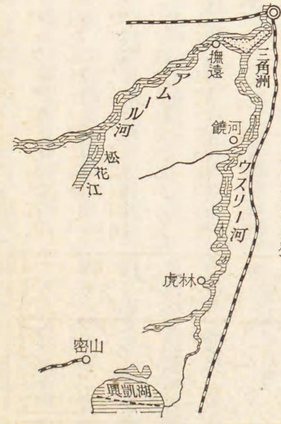




日蘇國境の天測境界標

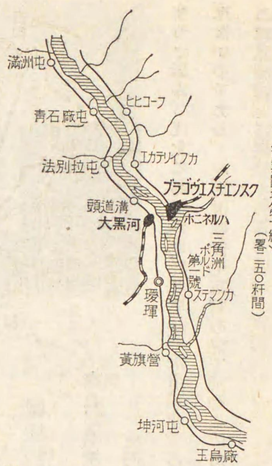
同時にこの紛爭を激化する原因となつてゐるのが、滿蘇國境の大部分がウスリー・アムール兩川の河川を以てする自然的國境であることである。國際法や政治地理學で認められてゐる原則を認めてゐないのである。これが國境を紛爭させる一ふことになつてゐるのであるが、橫紙破りのソヴィエト聯邦政府はこの一般に認められてゐる原則を認めてゐないのである。これが國境を紛爭させる一大原因であるが、そこへもつて來て不幸なことにはアムール・ウスリーの兩川の河川中には大小一千數百の川中島があるのであり、これ等の川中島の所屬問題がこれに加つて紛爭を複雜化してゐるのである。

國境紛爭の焦點



東北部國境　滿蘇國境のうちで現在一番問題となつてゐるのは北部國境のカザケヴィッチ水道問題である。これはウスリー・アムール兩川の合流點であつて、そこにある大三角洲の歸屬問題に關係してゐる。

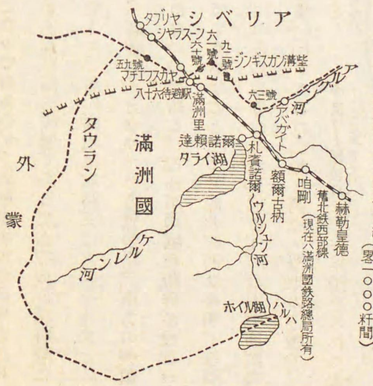
ハバロフスクの前面にあるこの島は我が壹岐の島よりも少し大



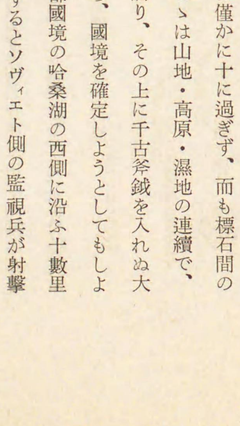
きい。そこには耕地もあり、住民も居る上に、軍事上も重大な意義をもつてゐる。國際法上の純理から見ても、又既存條約の解釋から見ても、この島は滿洲國に屬すべきものである。從つて滿洲國側では該水道と三角洲とは共に自國に屬することを主張してゐるがソヴィエト側ではカザケヴィツチ水道が兩國の國境で、三角洲は自國が領有すべきだと主張してゐる。事實ソヴィエト側はこれを占領し、こゝに軍事的設備を施し、對滿軍事行動の基點としてゐるのである。

北部國境　又ブラゴヴェシチェンスク附近のボヤルコフ水道に關しても、そこにある三角洲をめぐつてカザケヴィッチ水道と同じ問題が起つてゐる。そればかりでなく、北部國境のアムール川中にある數百の川中島の歸屬が未決定のまゝ殘されてゐるのである。

西部國境　西部國境は短いので、滿蘇の間に係爭となつてゐる點は、北部國境に比較すれば少いが、やはりアルグン川の川中島の歸屬問題が殘つてゐる。又アバガイツフスキー（アバガイトゥイ）から滿蘇國境界點に至る迄の陸境が不明確で、紛爭の的となつてゐる。一九一九年の齊々哈爾協定による正常の國境の南方二粁乃至四粁の滿洲國領土内を走る僞瞞國境があり、かつてロシヤはこの南方の國境線を占領し、又ソヴィエト政府もこれが眞の國境だと主張してゐる。これに對し滿洲國はこれを無效だと主張してゐるのである。



東部國境　東部國境では、北方のウスリー江中の多數の川中島の歸屬が紛爭の的となつてゐるほかに、南方の興凱湖以南の陸地が明確でない。北京・愛琿兩條約によつて興凱湖から圖們江までの陸境には三十五の國境標碑が設けられたのであるが、このうち十六はなくなつて居り、四は不明、三つは移され、現在殘存してゐるのは僅かに十に過ぎず、而も標石間の距離は平均十八粁である。而もこゝは山地・高原・濕地の連續で、分水嶺も幾つか平行・交叉して居り、その上に千古斧鉞を入れぬ大森林がつゞいてゐるのであるから、國境を確定しようとしてもしようがないのである。現にこの東部國境の哈桑湖の西側に沿ふ十數里の滿洲國内の道路を住民が通行するとソヴィエト側の監視兵が射撃すると云ふ。尤もこれは滿洲國建國以前からの事であつて、從つて今日でも滿洲國人は自國内の領土を歩くことが出來ないのである。更に興凱湖七五粁の湖上國境もソヴィエト聯邦がこれを獨占してゐるからである。

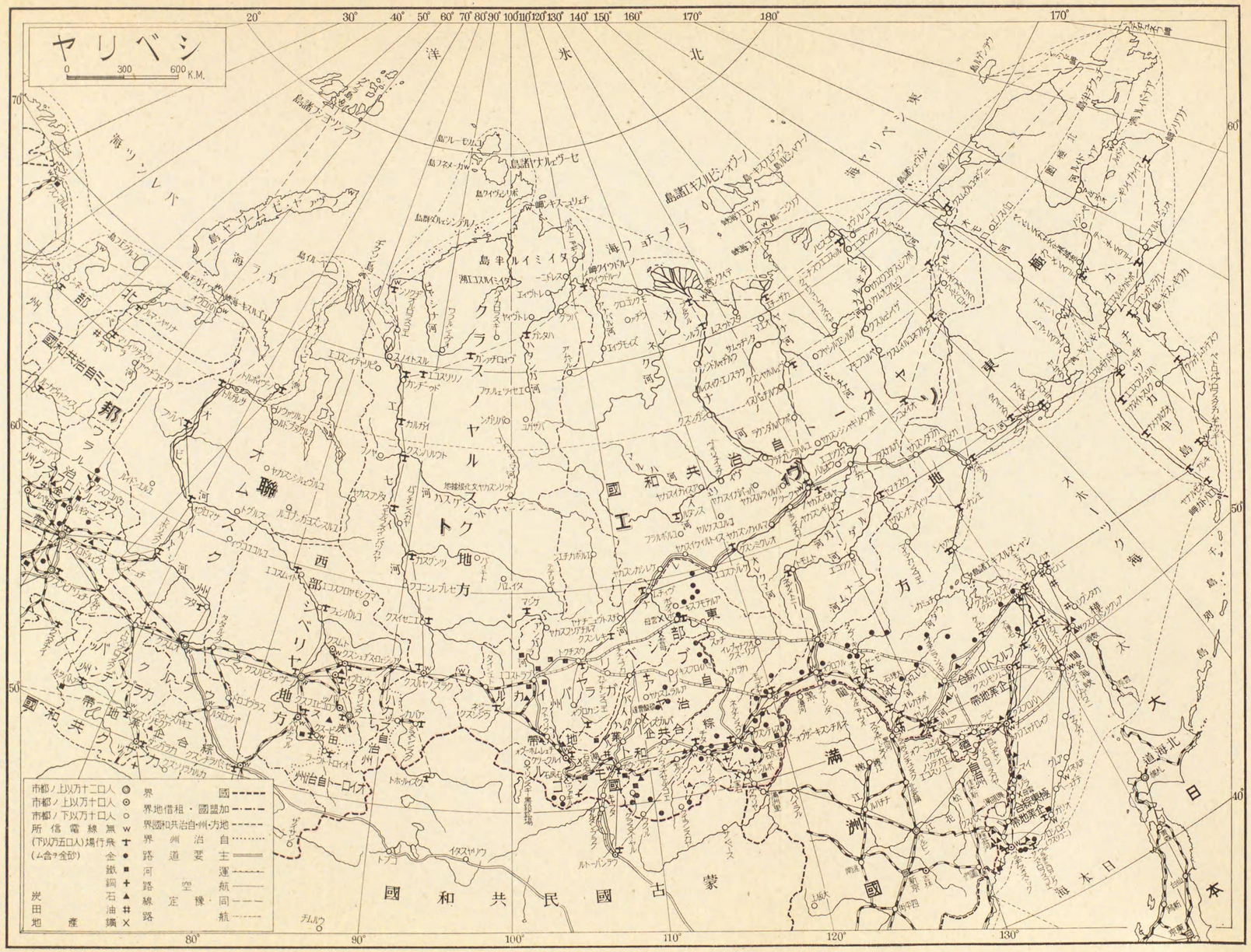


以上は大體滿蘇の國境であるが、更に滿蒙の國境に至つてはもと〳〵國境線がない。滿蘇の間にはとにかくアムー

ル川・ウスリー江とか、又は山地と云ふやうな政治地理學でいふ自然的境界が存してゐるが、滿蒙の間に至るとこれが全くない。一面に空漠たる草地、沙漠の連續の上に、滿蒙は共にもと支那の領域であつたので、行政上は區劃されて居つても、獨立國家間の國境のやうな明確な境界は全く存してゐなかつたからである。

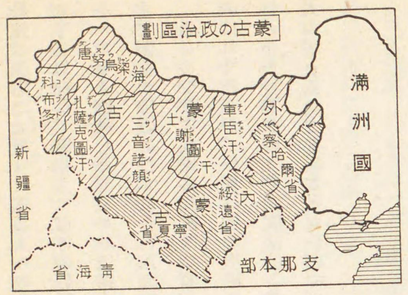
かくて滿蘇の不確定の國境を確定することは目下の急務である。勿論滿蘇の國境を確定したからとて日滿兩國とソヴィエト聯邦との根本的對立は解消するわけのものでもないのであるが、ソ聯邦側が國境確定を實行すると云ふことは對日滿態度のある程度の緩和を意味するものであり、又續出する國境紛爭事件を無くするものであり、この限度に於て日滿蘇の間の關係を明朗化するに役立つものであることは云ふまでもないのである。

20° 30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150° 160° 170° 180° 170°
60°
50°
40°
北 氷 洋
海 リペニ 東
島 ヤーゴヤツラフ
島 ルーセムン
島 フネメーカル
島 ナルエヴラーゼ
島 ヴィンドル
島 キスーリェチ
島 ヤーゴヤツラフ
島 ヴルシンブルノ
島 ヤーゴヤツラフ
島 半ルイミイタ
海 フョードラ
海 ラ カ
湖 エコスルイミイタ
ニーデルス
エイヴトレ
ガタハ
エカンデロヴ
エスリソリノ
ガンドード
エカルガイ
ノヤルスク
エンゲリガ
エコサバ
エイヴモズ
ヴルイヴドルーノ
ヴルイヴドルーノ
ヴルイヴドルーノ


ヤリベシ
0 300 600 K.M.
北氷洋
海ツンドラ
海ヤリベシ東
海フョードラ
島半ルイミタ
ヤクート自治共和國
ヤルスク地方
ソヴィエト社會主義共和國聯邦
西部シベリヤ地方
バイカル地方
ブリヤート自治共和國
ハバロフスク地方
沿海州
黑龍江
滿洲國
蒙古民國
日本海
北海道
大日本
千島列島
樺太
市都ノ上以万十二口人
市都ノ上以万十口人
市都ノ下以万十口人
所信電線無
(下以万五口人)場行飛
(ム含ヲ金砂)
金
鐵
銅
炭
石
油
田
地
產
鑛
界
國
界地借租・國盟加
界國和共治自・州・方地
界州治自
路道要主
河運
路空航
線定豫・同
路航

第七章　外蒙古

一　蒙古人民共和國



外蒙古のソヴィエト化　外蒙古は滿洲事件以來日蘇の勢力角逐場として世人の深甚な關心を喚起した。併し今日ほどにその意義の重大さが痛感されたことはあるまい。日蘇の衝突はこゝを舞臺として先づ勃發するかに見える。この外蒙古は支那の邊疆地帶の一つである。東は大興安嶺を越えて滿洲國につゞき、又東と南とは內蒙古に接し、西はアルタイ山脈によつて新疆に連り、北方は西興安嶺・サヤン山脈によつてシベリヤに續いてゐるのである。

外蒙古は清朝の時代支那の藩部としてその支配のもとにあつたので、今日でも地理上は支那の一部として取扱はれてゐる。とは云へ、今日では支那から離れ、蒙古人民共和國となつて完全にソヴィエト化されてゐることは云ふまでもないのである。

元來蒙古はゴビ沙漠を境として大體その北部を外蒙古とする。然しこの地理區

設定の仕方は元來は支那の人々の考へ方で、蒙古人自身は内外の蒙古の區別を用ひてゐないのであつて、支那から獨立する以前は、蒙古人は彼等の住所の四部、卽ちチェチェンハン・トシユントハン・ヂャサクトハン・サインノハンの四部をハルハと總稱した。ハルハは楯・防衞・保護等の意味の蒙古語であつて、以上の四部の汗は成吉思汗（ヂンギスカン）の直系の子孫として蒙古の守護に任ずるといふ理想からハルハと稱したのである。

ところで蒙古人民共和國はこのハルハと西北のホプト（コブト）地方を包含する。その面積は約一百五十五萬方粁と云はれてゐるが、住民は遊牧生活を餘儀なくされてゐるので、人口は頗る少く約七十六萬人（一九三〇年）と計上され、一方粁當りの人口密度は〇・五人に當るわけである。從つて面積の大きい割合には人口が極めて稀薄で、殆ど無人の境と云つても差支へないのである。

二　地形と氣候

高原性地形

外蒙古高原　外蒙古はアジヤ大陸内部の一大高原である。殊に西北部の土地は高く、平均一千四百米位あり、ウランバートルは海拔一、三〇〇米、ヂブホラントウは一、六五〇米、ヂルガラントウは一、四〇〇米に達する。又アルタイ山脈はソヴィエト聯邦のアルタイ山脈に連り、外蒙古を縱走して東南に延びてゴビ沙漠中に消える。西北端のタンヌウリャンハイ、卽ちツウワ共和國との國境附近にはタンヌオラ山脈が西から東へとわだかまり、東方に延びてサヤン山脈と連つてゐる。その中間はハンガイ山脈があつて、外蒙古の東國境附近に延び、又東北のシベリヤとの國境附近にはヤブロノイ山脈の餘勢があらはれてゐる。かくして、國の西北部には高山が多く、最高は四、五七五米に達する。然るに、西南に移るにつれて土地は次第に低くなつてゐる。東南の内蒙古との國境附近には興安嶺（ヒンガン）や陰山山脈があらはれてゐる。從つて外蒙古は殆ど四周を山に圍まれた一大盆地をなしてゐるのである。平均高度は一千米前後で、これを陰山・興安兩山脈の西側の地方、中部のゴビ沙漠地方、南部のオルドス及び西套蒙古地方、外蒙古のセレンガ・ケルレン兩河流域地方、アルタイ山脈の西側の地方の五つの地域に分つことが出來るのである。

ゴビ沙漠　中央部のゴビ沙漠は支那人が瀚海と呼んでゐるところで、太古は海底であつたと云はれてゐる。面積百五十萬方粁に及び、海拔平均約一千百米の廣大な凹地である。沙漠と云つても砂原ばかりではなく、砂礫・土砂・鹽土に蔽はれ、不毛の土地をなしてゐるのである。ゴビとは蒙古語で沙漠とか曠原と云ふ意味で、蒙古人は單にこれをゴビと云ふ普通名詞を以て呼んでゐる。だからゴビ沙漠と云ふのは同意義を繰り返してゐるわけで、所謂ヒーブリダコンボジチーオの法則の一例と見ることが出來るのである。

蒙古と云へば我等は沙漠を聯想する程であるが、蒙古は決して沙漠ばかりの國ではない。沙漠であるのは東南の内蒙古と接する方面であつて、西北の山岳地帶と東北のケルレン・オノン兩河の流域は沙漠ではないのである。

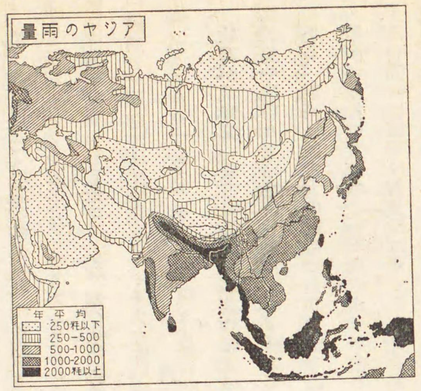
ハンガイ地方　外蒙古の西北部は山岳地帶であつて、幾多の大山脈が略ゝ平行して東西に走つてゐる。山脈の麓は森林に蔽はれ、河川がその間に流れ、大小の湖沼が點在し、平原は良好な牧草に惠まれてゐる。又東北部の山地も多數の河川がこゝを流れ、流域の平地は甘美な牧草に蔽はれて居り、遊牧民は夏の間は青々と牧草の繁茂する溪谷や平原

に放牧し、冬になると山脈の森林に家畜を飼つて寒氣と吹雪とを避けるのである。森林・草原・河川に惠まれたこの山岳地方は蒙古人にとつては理想的な牧場であつて、蒙古人はこの山脈、この山地をハンガイと讃美してゐる。ハンガイ（抗愛）とは森林・牧草・河湖に富み、遊牧民を滿足せしめる山岳地といふことを意味する言葉である。

水系　外蒙古の主な河川は概ね北西及び東北部の山地に發する。ケルレン（ヘルレン）オノン・オルホン・セレンガ等の諸川やシベリヤを流れるイェニセイ川・オビ川の上流等は何れも西北の高山の積雪に養はれてゐる。北西の山岳地帶には湖沼も多く、最大なものはフスグール（フブスグール）で海抜一、六二〇米、水深五三〇米の淡水湖で、四圍は斷崖に圍まれ、蒙古人はこれをダライ海と呼ぶ。そのほかウブサ・キルギズノール・ハラウス等の諸湖がある。これ等は鹹湖で、湖岸には良質の天然食鹽が結晶してゐる。ゴビ沙漠中には平素水の流れてゐる河流はなく例のワジ（涸れ川）があるだけである。又湖沼は處々に散在してゐるが、皆鹽味を帶びてゐる。かくて沙漠では水に苦しむのである が、幸なことには人馬の通行する道筋には井戸がある。この井戸の水は鹽辛いのであるが、中には清水の湧き出るのもあるのである。蒙古語でフックと云ふのがこの井戸で、道路に沿つてゐるので、これが沙漠の道標ともなつてゐるのである。

大陸性氣候

雨量　海から遠い盆地のために蒙古の氣候は雨量が少く、寒暑の差の甚だしい大陸性氣候と云ふことに盡きる。第一に雨量について見ると、實に少い。例へばウランバートルの如きは一六〇粍に過ぎない。殊に東南の低地は雨が少く、こゝにゴビ沙漠が展開してゐる。この沙漠は東西約一千五百粁、南北一千粁に亙る大沙漠で、大陸に於ける沙漠の東端に當つてをり、これによつて蒙古は外蒙古と內蒙古とに分たれてゐるのである。雨が恐ろしく少く、所によつては一年中全く降らない所さへある。これがために空氣が非常に乾燥してゐる。併し國の西北部に進むにつれて、土地が高くなるので、西北の山岳地帶は雨量が相當にある。雷鳴が多いが、冬季の雪は大して多くはない。夏季に氣溫が急變して降雪を見ることがある。が、とにかく雨が比較的多いので、外蒙古で森林の茂つてゐるのは西北部の山地である。大小の河川は山間に發して山脈の間を流れ、こゝに豐かな牧草のある河谷平原を作る。蒙古の遊牧民は夏は牧草の繁茂する河谷平原に放牧し、冬は山側の森林に家畜を驅つて寒氣と吹雪との害を避けることが出來るのである。



氣溫　次に氣溫について見ると、地理的位置により寒暑の較差も甚だしいことは云ふまでもないのであつて、主な地の平均氣溫を見るに下表の如くである。

地名	一月	七月	一年	最高	最低
ウランバートル	(一)二七・八度	一七・六度	(一)二・九度	三四・六度	(一)四二・二
チブホラントウ	(一)二四・二	一九・二	(一)〇・二	(一)三三・二	(一)四七・三
ヂルガラントウ	(一)二二・二	一七・〇	(一)一・九	三五・〇	(一)三八・八

つまり、冬季嚴寒で、時には零下五十度内外に下ることがあるのに對し、夏季は暑熱が甚だしく、日中は百度に昇るのである。しかも冬季が永く、夏が短く、春秋が殆んどないのである。又寒暑の較差の大きいことは一日のうちにもあらはれ、日中と夜分とは冬と夏とのやうな氣溫の變化を示すのであつて、晝は炎熱灼くが如きであつても夜は零下五度に降下することさへあるのである。

風　風は西及び西北の風が一般に強烈で、冬季に寒風の際は旅行することが困難である。

三　産業と交通

遊牧經濟

牧畜が主産業　蒙古の基本的産業であつて、蒙古人は畜産物によつて生活してゐると云つてもよいのである。彼等は穀物や麥粉などは稀にしか食はず、野菜などは全く食はないのであつて、肉類・乳製品が彼等の主食となつてゐるのである。家畜は蒙古人の財産であり貨幣であり、貧富の差も所有家畜の數を標準としてゐる程である。而して蒙古人の牧畜は原始的な遊牧で一ヶ所の水草が食ひつくされると、新しい水草を求めて他の場所へと移つて行き、かうした生活の間には彼等は衣食住に要する物質の大部分を自給自足してゐるのである。かくて彼等の國民經濟は今尚原始的な物物交換の域を脫しないのであつて、この牧畜を除いては見るべき産業が全くないと云つて差支へないのである。

蒙古人の牧畜は全く自然まかせである。あの大陸性の不良な氣候のうちにあつても、蒙古人は牧舍を建てゝ特に寒暑を防ぐ世話をしない。水草を刈つて不時の用に供するといふことも考へない。惡疫が流行しても獸醫がゐないからどうすることも出來ない。かくて旱害・吹雪・降雪・疫病等のために毎年多數の家畜が斃死してゐる有樣である。それがために一朝にして家畜を失つて一生をルンペン生活のうちにおくるものすらある。それにも拘はらず、蒙古人はこれを神意に歸して諦めてゐるのである。

現在蒙古にゐる家畜は合計で二千萬に達する。今これ等を細別すれば、羊一、二七〇萬頭、山羊二五三萬頭、牛一九五萬頭、馬一六〇萬頭、駱駝四二萬頭となる。而も最近はその數が次第に增加してゐるのである。

これ等の畜産物としては、羊毛一萬六百噸、山羊毛二百三十噸、馬皮三萬八千枚、羊皮百八十萬枚、犢仔馬その他の獸皮百五十七萬枚、ソーセージ用の腸三十萬個、馬尾三萬二千本、犀尾二萬七千本である。畜産物の一部分は國內で消費されるが、他に輸出されて、外蒙古第一の輸出品となつてゐるのである。

不振の農業　雨量が少いといふ地理的條件に左右されて、外蒙古の農業は餘り行はれず、遊牧が住民の基本的産業となつてゐる。農業が不振であるから蒙古人は穀物や野菜を常食してゐないのである。而も高度の文明は農業を前提すると見られるから、外蒙古にしてこの地理的條件が不變であるかぎり、蒙古人は半文化の段階から脫して、高度文化の段階に達し得られるとは到底考へられないのである。併し外蒙古でも農業は多少行はれてゐる。外蒙古で農業の行はれてゐるのは西北山岳地帶の例のハンガイと呼ばれる地帶の河谷平野に於てだけである。この地方は蒙古では雨が一番多いので農耕が出來るのであるが、この地帶も海拔高度は四千呎內外、氣候も寒烈にすぎる上地味もよくなく又灌漑用水は鹽分をふくんでゐるので、農業の發達にとつては有利でないのである。それから北部シベリヤとの國境附

近、ウランバートル市附近、オルボン・ハラ・セレンガ等の河川の流域、ヂルガラントウ附近でも多少行はれてゐるのである。耕地面積は四萬三千ヘクタールに過ぎず、大麥・小麥・稞麥・黍・豆類が栽培されるが、穀物は自給するに足りないのである。耕作法はまた原始的で、農具の如きも幼稚なものを使用してゐるのであるが、最近はソヴィエト聯邦にならつてコルホーズ化即ち集團農場化が進行中であるが、國民經濟に於て農業の占める地位は著しく低いのであつて、例へば一九二七年に於ける農業收入は國民所得の僅かに六―八%に過ぎなかつたことによつてもそれを知ることが出來るのである。

尙外蒙古で農業に從事するのは主に支那人であつて、彼等は支那から移住したもので、約四萬ヘクタールの耕地を持つてゐるのである。そのほかソヴィエト人もこれに從事してゐるが、蒙古人經營の耕地は少く、農業に從事する蒙古人は五―六千人位しかないのであつて、このことは蒙古人がどこまでも遊牧の民であることを示してゐると見ることが出來るのである。

林業　國土の沙漠性に妨げられて、森林は恐ろしく少ない。外蒙古では森林は西北部の山地にあるに過ぎないのであつて、ウランバートルの南方のボグトハンウラから南方は樹木が見られず、僅かに灌木と雜草とがあるに過ぎないのである。これがために林業は全く不振であつて、僅かにある北西の森林すらも伐採が今の所進んでゐない。尙この地方の森林の樹種は落葉松・樅・樺・楡・白樺・白楊・楊柳等であつて、外蒙古政府はこの森林の管理經營に力を盡してゐるのである。

たゞこれに關聯した產物として注目さるべきは毛皮である。野獸・野禽は多いが、殊に西北部山岳地帶の湖沼附近にはタルバカン・栗鼠・貂・狼・黑貂・山猫・アナグマ等の毛皮獸が獲取され、毛皮・羽毛は蒙古の重要な輸出品である。

漁業　外蒙古の河川には魚類が頗る多いのであつて、外蒙古を旅行する人の驚く程である。これは從來宗教上の關係で魚の捕獲が禁止されてゐたからである。併し共和國となつてからは漁業を許可してゐる。從つて漁獲も行はれてゐるのであるが、蒙古人は魚肉を食はないので、捕獲した魚類は在留外人の食用となり、又輸出される。

鑛產　鑛物も相當に多いと見られてゐるが、調査が行き届いてゐないので詳しいことは今の所ハッキリしてゐないのである。たゞウランバートルの東方のナライフには炭田があつて一九一五年以來採掘され、一九二九年には八百五十噸ばかりの石炭を產出した。その他では鐵・銅・鉛・石墨・銀等の鑛物が發見されたと云ふが、未だ採掘されてゐない。但しアンチモニー・水銀・赫土は多少の產があると云ふ。外蒙古は從來は砂金の產地として知られ、帝制時代にはロシヤ人經營の產金會社があつて採金に從事し、一九〇二年から一九一九年までに十噸の金を採取したものであるが、外蒙古が獨立してからのこの會社の財產は外蒙古政府に所有されてしまつたのである。そして政府が採金に從事したが、成績が思はしくなかつたので、今日では中止してゐると云はれてゐる。又食鹽が鹽湖から採取され、年產五千噸に及ぶのである。

不振の工業　これ等の原料素材に基礎をおく工業は如何と見るに、今の所は萌芽狀態にある。蒙古人が水草を追つて移轉する遊牧民であり、又國民經濟が自給自足の上に立つてゐるのを見ればこれもまた當然のことゝ云はなければならない。今日皮革・羅紗・菓子・製粉・石鹼・煉瓦・蠟燭・馬具・羊毛皮・外套等について工業化が企てられつゝあるが、未だ見るべきものがないのである。又彼等の使用する日用品の製造は支那商人に獨占されてゐるところから見れば、

蒙古人には工業上の能力に乏しいと見られるのである。從つて人的要素の上からも原料の上から云つても外蒙古には大工業が起るとは考へられないのである。たゞ原料素材の關係から云つて、皮革工業は有望視されてゐるのであつて、外蒙古政府はこの方面に力を注ぎ、この製革によつて、蒙古人特有の靴や西洋型の靴を作つてゐるのである。

未發達の交換經濟

國內商業　蒙古に於ける交換經濟の發達は生產物に乏しいことゝ、貨幣の少いことによつて著しく妨げられて居つた。從來は物々交換が專ら行はれて居つた。然るに一九二四年以來ウランバートルに蒙古商工銀行が設立され、硬貨と紙幣とを發行してゐるので、貨幣交換が次第に發達しつゝある。ところが、外蒙古共和國政府はソヴィエト聯邦政府に倣つてゐるので、國內の個人商業を著しく壓迫してゐるのであつて、それがために、從來外蒙古に於て商業上の支配權を握つて居つた支那商人は大打擊を被つてゐるのである。支那人は外蒙古獨立前までは商業を一手に獨占してゐたと云つてよいのであつて、大資本をもつて手廣く取引を營んでゐたのである。今日ではそれが勢力を失つて、ウランバートルには政府經營の百貨店があらはれてゐる程である。

貿易　ソヴィエト聯邦に倣つて國營を方針とし、國營の貿易機關としてモンチェンコオプなる機關が設けられてゐる。このほか蒙古商工銀行・ソヴィエト聯邦國營貿易機關のストルモング・支那商人・イギリス人商會などが現在貿易に參與してゐるのである。

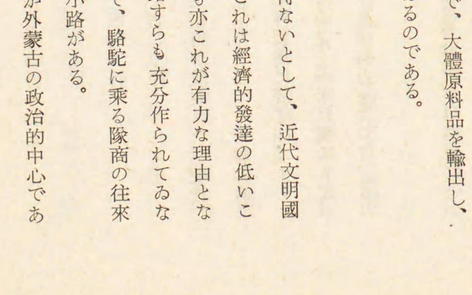
一九二七年に於ては輸出は二五、二五三千留、輸入は二四、六〇八千留、合計四九、八六七千留。最近は貿易の半以上はソヴィエト聯邦の占めるところとなつてゐるが、一九二七年にはソヴィエト聯邦からの輸入は七、五四六千留、同國への輸出は一二、〇八九千留、合計一五、六三五千留であつた。

主な輸出品は家畜・獸肉・毛皮・犢・獸毛・腸・麝香・脂肪・バター・生皮・甘草等、主な輸入品は小麥粉・穀物・砂糖・茶・煙草・米・酒・藥品・石油・燐寸・金屬製品・羅紗・粗布・雜貨で、大體原料品を輸出し、工業品を輸入して居り、遊牧民たることに合致してゐるのである。

交通の發達

道路　內陸國であるので、海港がないのはやむを得ないとして、近代文明國に於ける最も重要な鐵道も全く敷設されてゐない。これは經濟的發達の低いことに因ることは勿論であるが、この國の地理的條件も亦これが有力な理由となつてゐるのである。鐵道がないばかりでなく、道路すらも充分作られてゐない。道路は多くは通行者の稀な踏分路の有樣であつて、駱駝に乘る隊商の往來の出來るのは幹線道路であり、ほかに通行者の稀な小路がある。

幹線道路がウランバートルに集つてゐるのも、市が外蒙古の政治的中心であることから見て當然である。主なる道路は次の如くである。



ウルガ・カルガンン間自動車交通

ウランバートル―張家口　一、〇六〇粁

蒙古の交通機關

ウランバートル―デブホラントウ間　一、〇六〇粁
ヂルガラントウ―コシャガチ間　三七〇粁
ヂブホラントウ―サイルウス―張家口間　一、七〇〇粁
ウランバートル―アルタンブラック　三六九粁
ヂブホラントウ―ヂルガラントウ間　四四五粁
ウランバートル―サンベイス間　七二〇粁

以上の道路のうちウランバートル・アルタンブラック間は自動車や車馬が往來し、又ウランバートル・張家口間、ウランバートル・サンベイス間も自動車往來が可能である。かくの如くに外蒙古では、自動車交通が發達し、ウランバートル・アルタンブラック、ウランウダ・ウランバートル・張家口間には定期自動車が往來してゐるのである。併し外蒙古の旅行は今日でも概ねまだ駱駝・支那馬車に主にたよつてゐるのである。

水上交通　水上交通としてはセレンガ川の本支流にセレンガ汽船會社の小汽船が往來し、又フスグール湖にはソヴィエト聯邦の船隊が若干就航してゐる。

要するに、外蒙の交通は未だ甚だしく不便であつて、文明の交通機關は未だ使用され始めたばかりの狀態である。たゞ最近の交通機關たる飛行機がアルタンブラック・ウランバートル間に往來してゐるのが特筆されるべきである。

通信　從來は驛遞の制度が設けられて居つて、官公吏の旅行、公用物の送達等に利用されたが、共和國となつてから郵便局が所々設けられて、書信や小包・書留等を取扱ふやうになつたのである。尙電信はウランバートル・アルタンブラック間、ウランバートル・張家口間、ウランバートル・ザインシヤビ間、ウランバートル・ヂブホラントウ・ヂルガラントウ・ウランホム間に通じ、ウランバートル・アルタンブラック間には電話が設けられてゐるのである。

四　住　民

人口　外蒙古の人口は七十六萬人と計上されてゐるが、注目すべきことは外蒙古の人口が最近增加してゐるのであつて、例へば一九一八年に五十四萬人であつた人口が一九二五年には六十五萬、一九二六年には六十八萬、一九二七年には七十萬、一九二八年には七十一萬、一九二九年には七十三萬、一九三〇年には七十六萬になつてゐるのである。これは革命以來外蒙古の經濟的・文化的水準が向上したことを示してゐるわけであるが、喇嘛僧の減少、花柳病の驅逐その他衞生設備の改善の結果であると見ることが出來るのである。

種族　外蒙古の住民を構成する人種は次の如くである。

一、ハルハ人　總數六十萬、西部を除き、廣く各地に分布する。

二、ドウルベット人　總數六萬、西部蒙古、ホプト川左岸から北オタンヌウル山地に住む。

三、オレート人　總數三千人、ホプト地方に住む。

外蒙古の牧人

四、ザハチン人　總數五千人、蒙古アルタイ山地に住む。

五、ミングット人　總數二千、ホプト地方に住む。

六、ホトン人　總數一千五百、同上。

七、ウリヤンハイ人　ホプト區内に住む。

八、ブリヤート人　總數三萬、北部に住む。

九、移住漢人　總數約十六萬人。

十、その他　チベット人・ソヴィエト人・英獨人等合計で七―八千人に達する。

以上のうち八までは遊牧生活者で、これらが蒙古族と總稱されてゐるのである。それらを含めて國民の八五%は勤勞階級に屬する。これに對して喇嘛僧は國民の一三%を占め、勤勞階級とともに、二大社會階級を組織してゐるのである。尚國民の二%は舊王族・士族等であつて、今日では國政上勢力がなくなつてゐるのである。

蒙古民族　ウラルアルタイ・ツラン系の人種で、日本人・滿洲族・トルコ族等とは正に兄弟の關係にあると云つてよいのである。彼等は黄赤白色の皮膚、黑く斜に切つた目、黑い剛直な頭髮、短い粗い頰髭、秀でた顴骨、低く厚い鼻をもつてをり、言語は膠着語を用ひてゐるのである。性質は溫和で寡慾、信義に厚く、情緒に富んでゐるが、生來頗る勇猛で謀略に長じてゐると云はれてゐるのである。

喇嘛教　蒙古人は元來は太陽を崇拜する原始的宗教を信じたのであるが、今日では喇嘛教を狂熱的に信仰してゐる。喇嘛教が蒙古に廣く流布するやうになつたのは一六〇〇年頃から後のことゝ見られるのであるが、淸が蒙古を支配するやうになつた時蒙古人を統治する政策上からこの信仰を奬勵したので、蒙古人は喇嘛教を狂信するやうになつたのである。これがために蒙古人はかつての勇敢な精神を全く失つてしまつたので、今日のやうな無氣力な民族となつてしまつたと云はれてゐるのである。

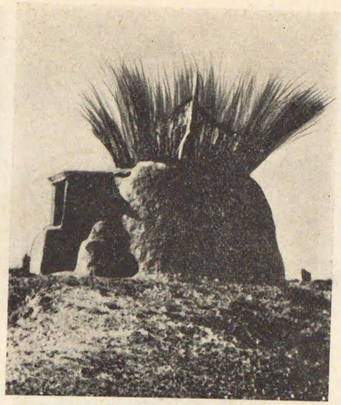
巡禮から歸つた喇嘛僧

喇嘛教の經典は地理・歷史・數學・物理・化學・天文・易學・教育・倫理・醫學と云ふやうに百般の事項を含み、喇嘛は僧侶であると同時に教育・祈禱・卜筮等の行事を管掌する學者であり、更に喇嘛の高僧、活佛は王公の上位を占める主權者である。このやうに喇嘛が崇拜されるので、蒙古人は男が生れゝば一人を殘して喇嘛としたので喇嘛の數は恐ろしく增加したのである。又これが爲に各地に華麗な寺廟が建立したので、財政的に窮して、蒙古の經濟的文化的發達が著しく阻害されたのである。

そこで外蒙古では今日では嘛喇教の弊害を自覺して喇嘛教を彈壓し、又十八歲以下の少年を喇嘛とすることを禁止

してゐるのである。今日では喇嘛の數は減少してゐるのであつて、一九一七年の十二萬人から一九三二年には八萬二千人となり、全人口に對する百分率は二十一%から十三%に減少してゐるのである。

、併し蒙古人から喇嘛教を取ることは出來ないのであつて、彼等はやはり喇嘛教を狂信し、寺廟を大切にしてゐる。それから彼等は土を掘ることを忌み、魚類を食はず、事物の改革を喜ばないのである。



オボ

オボ　又蒙古人の信仰するものとして、オボも有名である。オボとは「石を積んだ處」と云ふ意味で、土をもつて頂上に石を置いもので嶺・境界や又その他由緒のある所に設けられてゐるのである。彼等はオボの中には守護神が住んでゐるとて崇拜し、こゝを祭典場として盛大な式典を擧げるのである。

廟法會　一望千里の草原で家畜を相手として單調な生活を送る蒙古人にとつて唯一の慰安は喇嘛廟の法會である。蒙古の大きな喇嘛廟では毎年陰曆六月の十三・四・五の三日間に亙つて盛大な喇嘛法會が開催され、多數の喇嘛教徒がこゝに來集する。中には數萬の人々が西藏・新疆あたりからも集るものがあつて、佛前で讀經するほかに、廟前で跳舞と云ふ踊りをするのである。而もこれが蒙古人の經濟生活に重大な關係をもつてゐるのであつて、法會を機會として定期市が開かれて、物資の取引が行はれるのである。

包　遊牧民族蒙古人の家屋は所謂包と呼ばれるもので、傘のやうな木骨を屋根として木製の圓形の棚を作り、これに毛皮又はフェルトを覆つたものである。その全量は一臺の車に積載することが出來る上に、取る前から組立てまで僅かに三十分と云ふ簡易さである。この種の包は特にモングルゲル（移動包）と呼んでゐるのであつて、これに對してウブスンゲル（半固定式包）がある。これは漢人の壓迫で遊牧が出來なくなり半牧半農生活をした者の家屋で、モンゲルと同型であるが、屋根及び周圍を草葺としたものである。更に農業を主に行ふやうになつた者は屋根を葺き、周圍には圓形又は方形に壁を塗つたプンプクゲル又はトグルゲル（固定包）に住むのである。

蒙古包の組方

燃料　蒙古の景觀の特色は第一に木のないことである。それに石炭も、石油もない。そこで今日用ゐられてゐる唯一の燃料は牛糞や馬糞である。水草を追つて轉々として居を移す遊牧民も遊牧の根據地には牛糞溜を設け、こゝに牛糞を貯藏しておく。蒙古特有の喇嘛廟や王府には三十から五十、多いのは八十位の牛糞溜が設けられてゐる。これは

包の内部

五　沿革と政治

歴史に誇る蒙古大帝國

蒙古大帝國の建設　蒙古民族は最初は苗・匈奴・突厥・韃靼等と呼ばれてゐた民族であるが、南宗の高宗時代(一一二七―六二年)に族長の哈不勒(ハブル)と云ふ者が始めて蒙古輔國公と稱し、又その孫の也速該(エスゲル)が金の附庸國となつて、アムール河畔に遊牧して勢力を擴大したので蒙古の名が知られるやうになつた。更にその孫鐵木眞(テムジン)即ち成吉思汗は一二〇六年は大汗の位について益〻勢力を擴大し、遂に蒙古は歐亞にまたがる空前の大帝國を建設したのであるが、南方に明が起るや蒙古は長城外に追はれて故郷に歸つたのである。明朝の間は蒙古に明の侵入を許さなかつたのであるが、清朝が支那を統一するや、蒙古も遂に清の支配下に立つたことになつたのである。而して清の外蒙政策は周到を極めたもので喇嘛教の奬勵や旗制の實施もこの時に始まつたのである。併し外蒙古と清朝との關係は征服者と被征服者の關係でなく、むしろ同盟者の間柄に近いものであつて、清朝時代を通じて蒙古人は特權的な國民の地位にあつたのである。蒙古がこのやうに清朝に屬してゐる間、帝政ロシヤが蒙古の北境を犯すやうになつたので、清朝は漢人を蒙古に移住せしめ、ロシヤに備へようとしたのであるが、その事業が漸く實行期に入らうとする一九一一年に清朝は崩壊することゝなつた。

牛糞の蒐集

柳で苞位の大きさにかこつて牛糞を堆積したもので、こゝに牛糞が不斷に拾蒐されてゐる。蒙古人はこれを手につかんで爐の中に投じて燃燒させる。さぞ臭いだらうと思ふものがあるかも知れないが、優良ものは青い焔をあげて燃え、少しも臭くはない。脫糞後一ケ年を經たものが、火力が最も強いと云はれてゐる。又春季の青草が萠え出る前、つまり全く枯死乾燥した草を食つた牛の糞は纖維が緻密で形が保ち、貯藏に便利で又火持がよいと云ふことである。

ソヴィエト化　この好機を捉へてロシヤは反支那の高い外蒙古の王公を使嗾して、一九一一年十一月に外蒙古をして支那から獨立することを宣言せしめ、活佛哲布尊丹巴(ジェブツンダンバ)を君主とする外蒙古が成立したのである。ロシヤは外蒙古の獨立を承認し、この新政權と條約を締結し、これを援助し、外蒙古を自己の支配下におかうとしたのである。

一九一七年にロシヤに革命が起り、帝政が亡びて、極東に於けるロシヤの勢力が衰へると、支那はこれに乘じて、極東に於ける完全な主權の恢復をはかつた。然るに派遣された支那官吏が政策を誤つたために蒙古人の反支感情が激化し、反支暴動さへも所々に勃發した。そこへウンゲルン將軍がシベリヤから赤軍に追はれて逃げこんで來て、殆んど全蒙古を白系ロシヤ人の勢力下にしてしまつた。併しウンゲルンが暴政を行つたので、蒙古人民革命黨が兵をあげ、ソヴィエト聯邦軍の援助をうけ、一九二一年末までに白系露軍を掃蕩し、一九二四年六月蒙古人民共和國が成立した。つまりこれによつて外蒙古は完全にソヴィエト化されるに至つたのであ

る。

ソヴィエト化された政治組織

ソヴィエト政權の成立　外蒙古共和國の建設は一にソヴィエト聯邦の援助によるものであつて見れば、その政治組織がソヴィエト化されてゐることは云ふまでもない。外蒙古はソヴィエト聯邦の模範に倣つてその政治を組織し、これによつて獨立の維持・國力の充實發展を遂げようとしてゐるのである。かつて、中央政府も地方制度も、はたまた經濟經營の方面に於ても全くソヴィエト聯邦の制度を殆どそのまゝ移してゐるのである。土地の國有・工業の國營化、貿易の國家的獨占、農業集團化等が行はれ、しかもその管理部門にはソヴィエト人を顧問又は指揮官に入れて居り、更にソヴィエト人を使用人に採用してゐるのである。

中央政府　一九二四年の憲法によつて、蒙古人民共和國の最高權力は大フラルダンに屬する。大フラルダンは自己の勞働によつて生活する十八歳以上の男女及び兵士から選出された議會から成り、通常年一回召集される。この大フラルダンが閉會中國家の最高權力を行使するものは小フラルダンで、これが中央執行委員に概當する。小フラルダンは年二回以上召集され、更にこれが十五人の幹部會、政府委員を選任する。幹部會は小フラルダンの休會中法令決議を認可し、政府各部長の任免權をもつ。政府委員は總理以下各部長でこれが中央行政官廳となつてゐるのである。

地方行政　從來は全國が五アイマークに分れ、更にこれが七十二のホショに分れ、ホショの下にソモン、ソモンの下にホソンがあつたが、一九三一年にはホショが廢され、全國が十三のアイマークに、更に三二四のソモンに分れ、ソモンがホソンに分たれ、ホソンが行政單位となつたが、バカに改組された。たゞコプト地方のみには二の民族旗が殘されてゐる。各地方自治體にも中央行政組織と同じやうに地方フラルダンが選擧され、このフラルダンが自治體執行機關を選任することになつてゐる。

旗・部・盟と王公制度

蒙古民族特有の行政組織に旗・部・盟と云ふものがある。部とは蒙古語でアイマークと云ひ、蒙古民族の遊牧集團のことを意味してゐる。蒙古民族は遊牧の民で、水草を追ひ轉々として居を移すのである。而してこの移動生活は個々別々には行はれずに、自衞の必要からして集團をなして行はれたのである。かうした移動生活の必要はまた集團の指導者として族長とか酋長とか云ふ者の發生を招來したのである。かゝる酋長を中心とした遊牧集團が部である。而してこの部が擴大したものがオロス、つまり國であつて、かつての元や現在の外蒙古人民共和國はこのオロスである。

これによつてわかる通り、部とは蒙古民族の間に自然發生的に成立した組織であるが、旗とは清朝が蒙古民族を歸順せしめた時、蒙古民族統治策の必要から、遊牧集團の自由な移動によつて勢力の擴大發展を怖れて、この集團の大きいものは幾つかに分割し、小さいものはそのまゝに一定の地域に固着せしめたのであつて、この蒙古民族が封じこまれた一定の地域が旗である。旗とは蒙古語でホショと云ひ、「犁の金」、「尖端」、「丘陵の支脈」の意味である。旗制度の施行によつて蒙古民族は旗内は自由に遊牧出來るが、旗界を越えては遊牧することが出來ぬやうになり、移動

による勢力の增大や集團相互の鬪爭もなくなり、これがために蒙古民族固有の旺盛な鬪爭心や、積極進取の氣性も失はれてしまつたのである。

更に淸朝は盟と云ふ制度を設けた。盟とは相接する一定の地域内の旗の團體であつて、これも蒙古民族固有の制度ではないのである。而して同じ盟に屬する旗の旗長は三年に一回、一定の場所に集會して過去の事跡の報告や將來の方針の協議をした。盟の名稱は盟會を開く場所の地名に因んで附せられてゐる。例へば錫林郭勒（シリンゴル）盟は現在の察哈爾省北半部の五部十旗の王公が錫林郭勒河畔に盟會を開いたのでこの名稱があるのである。

六都市

蒙古の都市又は部落の發達に對する喇嘛教の役割は大きい。喇嘛教の寺院の建設は聚落發達の萌芽となる。寺院が建設されて僧侶が住するやうになると、附近の蒙古人が參詣に集る。すると支那人がこゝに商店を設ける。喇嘛教の用品や僧侶の日用品が販賣される。卽ち喇嘛寺を中心として聚落が發達するのである。寺の格式が大なる程に聚落は大となるのである。

ウランバートル　從來はウルガ又は庫倫と云はれた都市である。一六四六年の建設の喇嘛教の大寺院を中心として發達した都市である。人口は約七萬で、市制が施行され、外蒙古に於て都市と稱される唯一の大聚落である。市街はトラ川の左岸二十町、セルビ川に跨り、三區から成り、活佛の大宮殿・喇嘛僧の僧坊及び喇嘛教廳・支那商店街があ

る。住民の中一萬二―三千は喇嘛僧、一萬三―四千人は支那人である。舊名ウルガとは天幕・宮殿の意味の蒙古語で、オルトウ又はウルゲの轉化らしい云はれてゐる。

ウルガの喇嘛寺

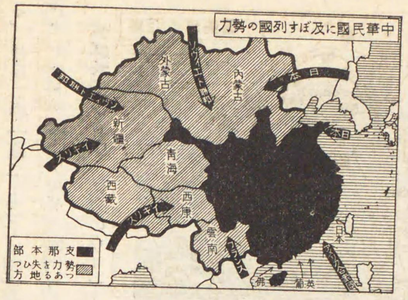
ヂブホラントウ　從來のウリヤスタイで、もと附近に楊柳が多いので「楊柳が多い」と云ふ意味のウリヤスタイを以て市名としたのであるが、今日では「威嚴のある者」の意味でヂブホラントウと改稱されたのである。人口は約六千、獨立前支那の總督が駐在してゐた地で、現在でも政治經濟上の一中心となつてゐる。

ヂルカラントウ　從來のホブトで、人口約三千人、ドウルベット州の中心で、市名は幸福・安樂の意味である。

アルタンブラック　從來の賣買城で、國境都市である。尙これに對するキャフタは現在ではトロイツコサフスク市に合併され、市名として存在してゐない。市名は「金の泉」と云ふ意味である。この所は蘇蒙の國境にまたがつて居り、外蒙古には支那商人、蒙古人が居住し、ソ聯邦領の方はソヴィエト聯邦の市街となつてゐる。

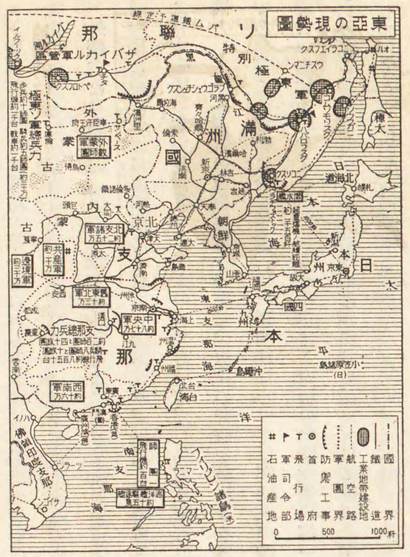
七　日蘇の接壤地帯

アジヤの新コリドール



地理的位置　外蒙古はソヴィエト聯邦・中華民國・滿洲國三國の中間の地理的位置を占めてゐる。かつて蒙古がこゝから起つて支那本部を征服して大帝國を建設し得たのはかゝる地理的位置のためである。又清が南方から北上してこをその範圍となし得たのもこのためである。更に現在ではこの國が完全にソヴィエト化されて、事實はソヴィエト聯邦の一部分となつてゐるもかゝる地理的位置のためである。又今日外蒙古が滿洲國の西方につゞき、滿蘇つまり日蘇間の戰略的に重要な意義をもつ地域となつてゐるのもこのためである。又外蒙古はかゝる位置を占めてゐるからこそ支那の邊境地帶と云ふ特別な地帶を作つてゐるのであつて、かゝる點から云へば外蒙古は邊境的位置にあると云へるのである。

更に、外蒙古は海洋から離れた中央的位置を占めてゐる。かゝる地理的位置は外蒙古を內陸國たらしめ、又大陸性氣候を生ぜしめてゐるのである。內陸國なるがために、蒙古帝國は海を求めて東漸・南下したのであり、又現在に於てもここをソヴィエト化したソヴィエト聯邦は外蒙古だけのソヴィエト化に滿足せず、こゝ



を通過地帶として、更に東方・南方をソヴィエト化せんとしてゐるのである。又大陸氣候であるために、雨が少く、從つて農耕が餘り行はれず、遊牧をもつて第一の生業としてゐるのである。かくて外蒙古に高い文化が發達せず、今尙半文化の狀態にとゞまつてゐるのもかゝる地理的位置が氣候を通じて、又支那本部からの邊境性を通じて作用した結果と見ることが出來るのである。

外蒙古とソヴィエト聯邦　世界の赤化は東洋からと叫ぶソヴィエト聯邦にとつては外蒙古はその赤化政策上重大な關係をもつてゐる。シベリヤと長い國境を接してゐる外蒙古はソヴィエト聯邦にとつては赤化の第一の目標となるべき運命にあつたと見ることが出來る。シベリヤ鐵道は外蒙古との國境に接してゐるのであり、又これから幾多の支線が外蒙古に向つて出てゐるのであつて、ソヴィエト聯邦が外蒙古に對して如何に重要な意義を認めてゐるかゞわかるのである。しかもソヴィエト聯邦外蒙古の赤化を完成してから更にこれを通じて內蒙古・滿洲國・支那の赤化に進出して來るのであつて、この點に於て外蒙古はソヴィエト聯邦のアジヤ赤化の前哨地點にあると見ることが出來るのである。從つてソヴィエト聯邦の赤化に對抗すべき我が國や滿洲國にとつてはこの外蒙古の赤化は直

接の脅威となるのは云ふまでもないのであつて、外蒙古の赤化には當然に反對しなければならないのである。かくてもし、日本の勢力がこゝに入つて行くやうになれば東洋赤化を目指すソヴィエト聯邦の政策の崩壊の一歩となるわけで、しかもこれに接してシベリヤが控へ、こゝに最近は大工業地帶が建設されつゝあるのであるから、外蒙古はソヴィエト聯邦にとつては國防の第一線にあると云つても差支へないのである。さればこそ、ソヴィエト聯邦は外蒙古軍の強化に馬力をかけてゐる上に、赤軍をこゝに集中してゐるのである。

外蒙古と日滿兩國　かくの如くに外蒙古はソヴィエト聯邦赤化政策の前哨地點であり、國防上の防塞地帶であるが、同時にこのことは日滿兩國にとつても云ふことが出來るのである。ソヴィエト聯邦のアジヤ赤化に對抗するのは我が大日本帝國の尊い使命と云つてよいのであつて、しかも外蒙古の赤化はアジヤ赤化の第一歩であつて見れば、日滿兩國としては外蒙古の赤化勢力を一掃し、赤化の脅威を免れようと考へることは當然のことゝ云はなければならないのである。この意味に於て外蒙古は日滿兩國にとつては國防上の防塞地帶と云つても差支へないのである。と同時に外蒙古の赤化を防ぐことは防共を使命とする帝國の大陸政策の第一歩と見ることが出來るのである。赤化から解放された外蒙古が出現し、こゝに防壁地帶が出來て始めて日滿兩國は安全となり、しかも日本は明朗支那と手を組んで提携して行くことが出來るのである。

併し現在の所ではこのやうな狀態にまでは至らないので、外蒙古の滿洲國境附近に於て日蘇の勢力は衝突し、この地帶が所謂摩擦面となつてゐるのである。

滿蒙國境の紛爭

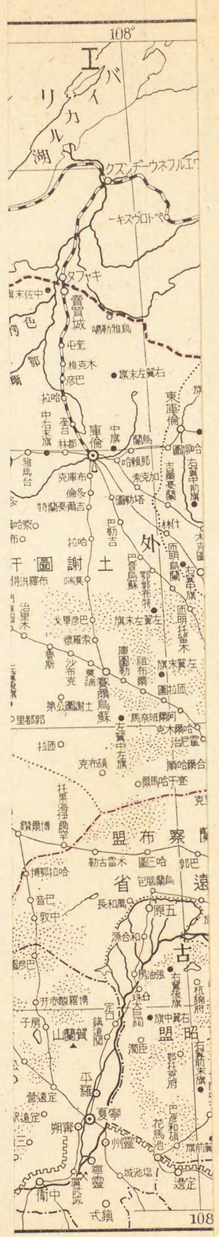
滿蘇國境の紛爭は滿蒙間にも延長してゐる。滿洲國と外蒙古との國境は約七百粁ある。滿蘇國境が大部分河川國境であるのに對して、滿蒙國境は東部のハルハ川の河川國境を除き大部分が茫々漠々一望千里の大草原であつて、國境の規準となるやうな自然的事物は全くないのである。こゝが國境だとして、滿蒙双方の國境監視隊が駐屯する所がつまり國境である。といふやうな有樣であつて、普通の意味で云ふ國境などは全くないのである。だからこれまでも屢〻國境紛爭が生じてゐるのである。

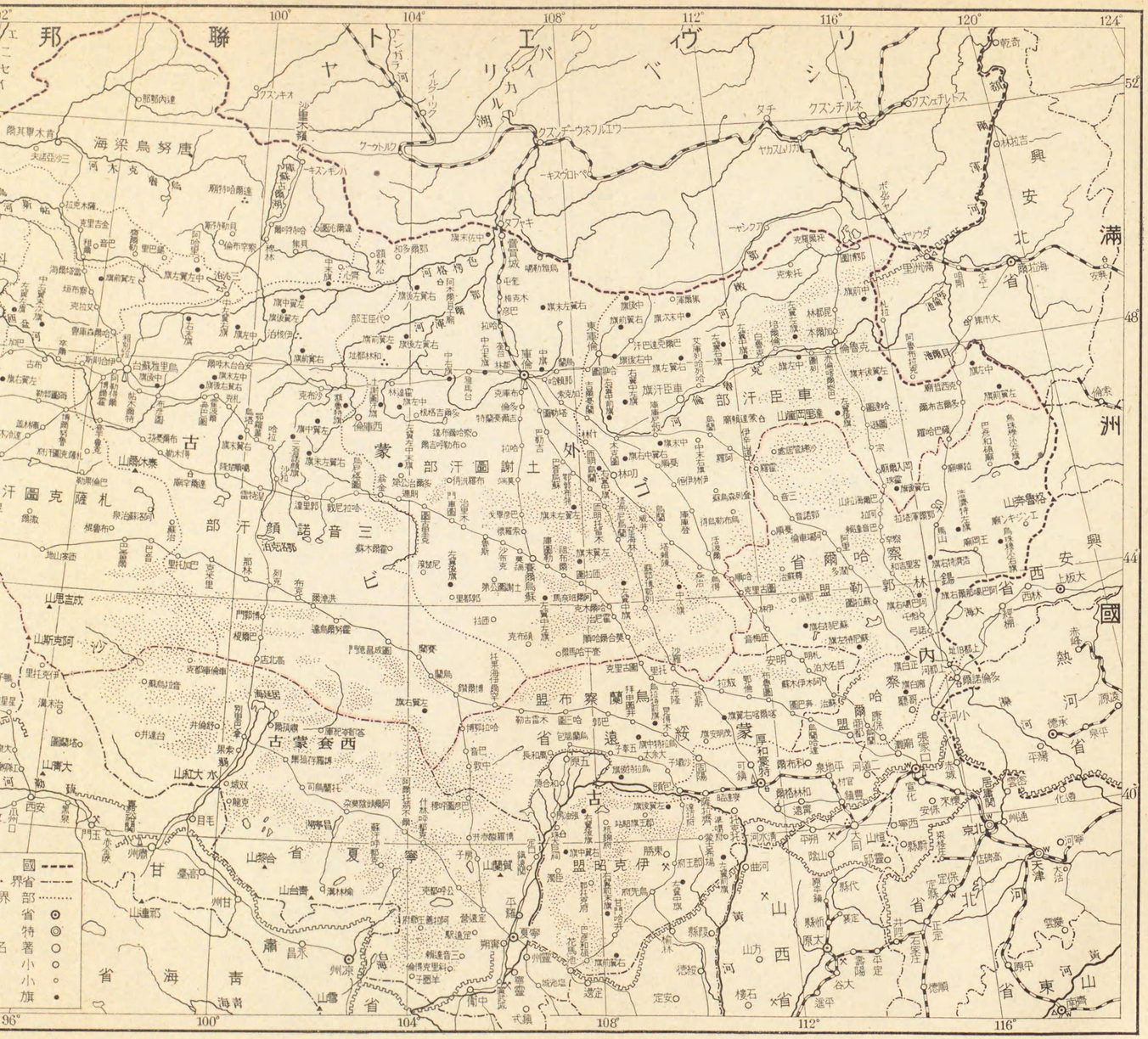
而して滿蒙國境が最近紛爭を續けてゐる主因はソヴィエト聯邦の外蒙古進出にあることは云ふまでもない。上述の如く今日では外蒙古は全くソヴィエト化して居り、事實上はソヴィエト聯邦の一部となつてしまつてゐるのであり、しかも赤軍援助の下に外蒙古軍は著しく強化し、これを頼んで滿洲國に對して積極的に挑戰的態度をとつてゐるのである。タウラン事件の如きはこれを雄辯に物語つてゐるのである。

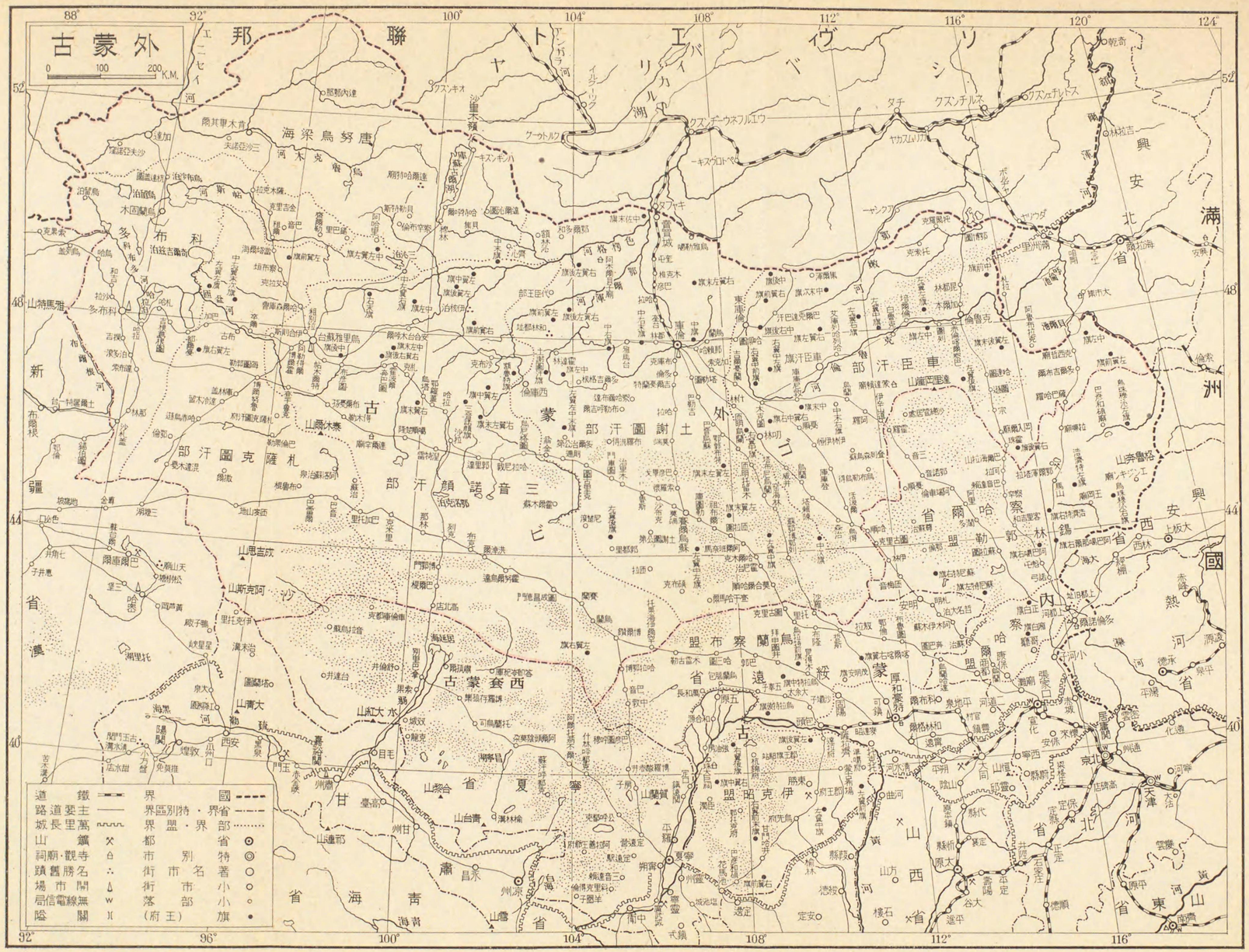
が、これと同時にこの紛爭が國境線の不明確によつて激化されてゐることもまた云ふまでもない。滿洲國側は在來の公文書や條約によつたり、又古老の意見を聞いたりして正當な國境を主張してゐるのであるが、ソヴィエト聯邦・外蒙古側は滿洲國建設以前から武力によつて國境を滿洲國内に推し進めてゐるのである。例へばボイル湖について見るに、國境は湖の中間を東西に走つてゐるべきにも拘はらず、外蒙側は湖の北岸の滿洲國領よりを以て國境として、湖の東岸にソヴィエト聯邦の罐詰工場を建設したやうな有樣なのである。今日では滿洲國が整頓して來たので、國境の

多くを舊に復してゐるが、今でも尚外蒙側の主張する國境は滿洲國内に食ひこんでゐる所が少くないのである。

このやうな不明瞭な國境を確定し、紛爭を防止する目的を以て滿洲國及び外蒙古は代表を派して所謂滿蒙會議を一九三五年以來數回開催して來たのであるが、未だに成果が得られず、しかも一方では外蒙古側の對滿不法越境は繰り返されてゐると云ふ狀態にあるのである。（終）




聯邦ソヴィエト社會主義共和國
ヴェルフネウヂンスク
ウランウデ
イルクーツク
アンガラ河
バイカル湖
クスンキオ
沙里木預
クートルク
クスンデウネフルエワ
タチ
クスンテルネ
クスンチレトス
乾奇
海梁烏努唐
河木克魯烏
キスンキハ
ファキ
富雲城
額林沁
知多爾額
旗末中
旗末佑中
旗末左翼右
旗末左翼左
旗末右翼右
旗末右翼左
旗前翼右
旗前翼左
旗中翼右
旗中翼左
旗後翼右
旗後翼左
旗後中
旗後左中
旗後右中
旗次中
旗次末中
旗左翼右
旗左翼左
旗左中
旗右翼右
旗右翼左
旗右中
旗末左翼右
旗末左翼左
旗末右翼右
旗末右翼左
旗末佑中
旗末中
東烏珠穆沁
西烏珠穆沁
阿巴哈納爾
阿巴噶
蘇尼特
錫林郭勒
察哈爾
正藍旗
正白旗
鑲白旗
鑲黃旗
正黃旗
鑲紅旗
多倫
張家口
宣化
懷來
赤城
龍關
延慶
昌平
通州
天津
河北省
熱河省
興安省
興安西省
興安北省
興安南省
滿洲國
遼寧省
吉林省
黑龍江省
綏遠省
寧夏省
甘肅省
青海省
山西省
陝西省
山東省
河南省
察哈爾省
熱河
承德
平泉
凌源
朝陽
阜新
錦西
錦縣
山海關
秦皇島
唐山
天津
北京
保定
石家莊
正定
井陘
太原
大同
平綏線
京綏線
京漢線
京奉線
北寧線
津浦線
隴海線
同蒲線
正太線
平漢線
膠濟線
滿鐵
東支鐵道
西伯利亞鐵道
蒙古人民共和國
外蒙古
內蒙古
新疆
西藏
96°
100°
104°
108°
112°
116°
120°
124°
52°
48°
44°
40°


外蒙古
0 100 200 K.M.
道鐵
路道要主
城長里萬
山鑛
祠廟·觀寺
蹟舊勝名
場市開
局信電線無
隘關
界國
界區別特·界省
界盟·界部
都省
市別特
街市名著
街市小
落部小
(府王)旗

昭和十三年三月十五日印刷
昭和十三年三月二十日發行

北支・シベリヤ・蒙古

金二圓三十錢

編者　佐藤弘
東京市神田區神保町一丁目一番地

發行者　株式會社三省堂
代表者　亀井豐治
東京市神田區神保町一丁目一番地

印刷者　株式會社三省堂蒲田工場
代表者　喜多見昇
東京市蒲田區仲六郷一丁目五番地

發行所
本社　東京市神田區神保町一ノ一　株式會社三省堂
振替口座　東京三一五五五
支店　大阪市西區阿波座下通二ノ六　株式會社三省堂大阪支店
振替口座　大阪八一三〇〇

不許複製

北支シベリヤ

大

宗内鴻著

華語要訣

新四六判・紙クロース裝・二五〇頁

定價一圓七十錢 送料九錢

初學者向きに編纂する傍ら上級者にも最適の華語指導書として隨一の良著である。從來の類書に全く見られなかつた、口型の圖解による基礎音の說明・アルファベットによる表示。又文章の公式に適切な例文を示し公式の使用法を具體的に示し日常會話に出易きものを擧げて讀者に親しみ易くし、尙備考欄には基礎的重要事項を例文、公式と連絡させつゝ簡明に解說してゐる。

三省堂刊

宮島吉敏
包翰華 著

日滿會話 增訂版

ポケット判・クロース裝・四七〇頁

定價一圓三十錢 送料六錢

都市と田舍、移住者と土着との關係、奉天附近、吉林省城、黑龍江省都市等各地方に於る發音の差異を實情に照合しつゝ北京音を主として解說し、誰でも直ちに滿洲語が自由に話せて役に立つやうその入門より日常會話に至る迄を懇切明快に指導した本邦唯一の日滿會話の權威書！ 日滿緊密の使命愈〻重大なる折柄全國民必備の書としてお薦めする次第である。

三省堂刊

企畫院內 東亞問題研究會編

北支産業要覽

菊半截判・二六八頁・クロース裝

定價一圓二十錢 送料六錢

國民政府が爲にせんとして發表せるものや支那に對して投資國である西歐列强の調査によるものなど信據するに足らぬ統計を資料とした北支産業關係の群書汎濫するに鑑み、企畫院內東亞問題研究會が最新にして正確なる諸多の資料を始めて提供されたのが本書である。北支の産業開發に志す人々、北支を研究の對象とする人々を始め一般現代人士の必備書として絶對の自信を以てお薦めする次第である。

三省堂刊

H—536

180
4525
10-1-21

CL B67-1
NO. 596